柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

２００１年度

２００２年3月

柏原市教育委員会

はしがき

この１年は、世の中を揺るがすような事件が相次いだ新世紀の始まりとなりました。市民の生活においても、バブル後の景気低迷が続き、市財政もたいへん厳しい状況にあります。このような景気の影響を受け、文化財保護法に基づく届け出件数や、発掘調査の件数も減少傾向にあり、埋蔵文化財の調査が市民の生活に深く関わっていることを、いまさらながら強く感じる次第です。

このように、発掘調査件数が減少する一方で、本市ではこの１年間にさまざまな文化財行政に取り組んできました。埋蔵文化財においても、史跡高井田横穴の線刻壁画保存事業への取り組みや、大阪市立大学による玉手山７号墳の学術調査への全面的な協力など、新たな事業にも積極的に取り組んできました。

本書では、この１年間に実施した埋蔵文化財の発掘調査のなかで、国庫補助事業に伴う発掘調査の概要を掲載しております。本市においては、個人住宅建設に伴う発掘調査のみを国庫補助事業の対象としています。調査に際しては、調査依頼者にご理解を求め、的確に、迅速にと心掛けております。今後とも、市民のみなさまのご理解とご協力をお願いしたいと思います。

平成14年３月

柏原市教育委員会
教育長　舟橋清光

例　　言

1．本書は、柏原市教育委員会が平成13年度に国庫補助事業（総額1,300,000円、国補助率50％、市負担率50％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。

2．調査は、柏原市教育委員会社会教育課　北野　重、安村俊史、石田成年を担当者とし、平成13年４月２日に着手し、平成14年３月29日に終了した。

3．本書には、平成13年１月１日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち12件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条の２および３に基づく届出・通知がなされたものは239件、その中で発掘調査を実施したものは23件、国庫補助事業として実施したものは15件である。

4．本書の編集は安村が担当し、執筆は調査の各担当者がこれに当たった。

5．調査・整理の参加者は下記のとおりである。

吉田　宏　　巽　秀雄　　柳谷　好子　　山本　俊雄　　寺川　款　　谷口　京子
唐錦　千幸　　分才　隆司　　堀　定夫　　新田太加茂　　尾野由希子　　阪口　文子
槙原美智子　　橋口　紀子　　松本　和子

目　　次

2001年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧
第１章　柏原市内遺跡の概要……1
第２章　大県遺跡……3
2001－１次調査……4
第３章　安堂遺跡……5
2001－２次調査……6
2001－４次調査……7
第４章　玉手山遺跡……8
2001－１次調査……9
2001－４次調査……11
第５章　原山遺跡……12
2001－１次調査……13
第６章　田辺遺跡……14
2001－３次調査……16
2001－４次調査……17
2001－５次調査……19
2001－６次調査……19
2001－７次調査……20
2001－９次調査……21

挿　図　目　次

図－１　柏原市内遺跡分布図
図－２　大県遺跡・大県南遺跡調査対象地位置図……3
図－３　大県遺跡2001－１次調査　調査区位置図……4
図－４　安堂遺跡調査対象地位置図……5
図－５　安堂遺跡2001－２次調査　土層模式図……6
図－６　安堂遺跡2001－２次調査　調査区位置図……6
図－７　安堂遺跡2001－４次調査　北壁土層図……7
図－８　安堂遺跡2001－４次調査　調査区位置図……7
図－９　玉手山遺跡調査対象地位置図……8
図－10　玉手山遺跡2001－１次調査　調査区位置図……9
図－11　玉手山遺跡2001－１次調査　トレンチ平面図・断面図……9
図－12　玉手山遺跡2001－１次調査　出土遺物……10
図－13　玉手山遺跡2001－４次調査　北壁土層図……11
図－14　玉手山遺跡2001－４次調査　調査区位置図……11
図－15　原山遺跡調査対象地位置図……12
図－16　原山遺跡2001－１次調査　北壁土層図……13
図－17　原山遺跡2001－１次調査　調査区位置図……13
図－18　田辺遺跡調査対象地位置図①……14
図－19　田辺遺跡調査対象地位置図②……15
図－20　田辺遺跡2001－３次調査　東壁土層図……16
図－21　田辺遺跡2001－３次調査　調査区位置図……16
図－22　田辺遺跡2001－４次調査　調査区位置図……17
図－23　田辺遺跡2001－４次調査　土層図・平面図……18
図－24　田辺遺跡2001－５次調査　調査区位置図……19
図－25　田辺遺跡2001－６次調査　調査区位置図……19
図－26　田辺遺跡2001－７次調査　土層模式図……20
図－27　田辺遺跡2001－７次調査　調査区位置図……20
図－28　田辺遺跡2001－９次調査　北壁土層図……21
図－29　田辺遺跡2001－９次調査　調査区位置図……21
図－30　大県郡条里遺構調査対象地位置図……22
図－31　平尾山古墳群調査対象地位置図……23

図　版　目　次

図版１　大県遺跡2001－１次調査
図版２　安堂遺跡2001－２次調査
図版３　安堂遺跡2001－４次調査
図版４　玉手山遺跡2001－１次調査
図版５　玉手山遺跡2001－１次調査
図版６　玉手山遺跡2001－４次調査
図版７　原山遺跡2001－１次調査
図版８　田辺遺跡2001－３次調査
図版９　田辺遺跡2001－４次調査
図版10　田辺遺跡2001－５・６次調査
図版11　田辺遺跡2001－７次調査
図版12　田辺遺跡2001－９次調査

2001年度　柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名	所在地	対象面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
大県郡条里遺構2001-1	法善寺4丁目348-1、357-1他	17,965.64	柏原市長山西敏一	小学校校舎増築	安村	7．3	1×1.5×1.5mを調査遺構・遺物なし
大県2001-1	平野2丁目221-18	176.55	葉山益生	個人住宅増築	安村	7．24	0.7×1.5×0.5mを調査本書P．4掲載
大県南2001-1	大県3丁目250-1、2	281.07	柏原市長山西敏一	消防会館建設	安村	9．20	1.5×1.5×1.3mを調査古墳時代・中世の遺物が出土
安堂2001-1	安堂町922他	2,090.3	(株) 竹弘鉄建(代) 竹弘道一	宅地造成	石田	7．19	1.5×1.5×1mを調査奈良・平安時代の遺物が出土
安堂2001-2	太平寺1丁目141-1	214.84	米倉功	個人住宅建設	安村	5．10	1×2×2mを調査本書P．6掲載
安堂2001-3	安堂町710	425.56	柏原市長山西敏一	小学校校舎増築	安村	7．4	2×4×1.6mを調査遺構・遺物なし
安堂2001-4	安堂338-11	73.46	内田哲治	個人住宅建設	安村	7．17	1.5×1.5×0.7mを調査本書P．7掲載
平尾山古墳群2001-1	青谷1953-1、1953-22	4,800	大阪府八尾土木事務所所長　伏見弘之	道路拡幅工事	石田	9．4～9．19	66㎡を調査。古墳時代の横穴式石室墳等を検出。縄文・古墳時代の遺物出土
玉手山2001-1	玉手町145-71	120.80	中間康正	個人住宅建設	北野	1．18～1．22	1.8×2.6×0.65mを調査本書P．9掲載
玉手山2001-2	円明町499-3	155.73	浅田建治	個人住宅建設	北野	2．19	1.5×1.5×0.4mを調査遺構・遺物なし
玉手山2001-3	旭ヶ丘1丁目446-49、446-50	116.66	加藤恵美子	個人住宅建設	北野	3．21～3．22	2ヶ所、計10㎡を調査時期不明の溝1条を確認
玉手山2001-4	玉手町364-14	441.04	藤江博藤江千鶴	個人住宅建設	安村	5．25	1.5×1.5×0.2mを調査本書P．11掲載
原山2001-1	旭ヶ丘3丁目1067-17の一部	112.10	赤尾嘉弘	個人住宅建設	安村	12．3	1.5×1.5×1.1mを調査本書P．13掲載
田辺2001-1	国分本町6丁目700の一部	89.71	池田実	個人住宅建設	北野	1．17	2×2×0.5mを調査遺構・遺物なし
田辺2001-2	国分本町5丁目561-7、561-8	90.04	松永勉	個人住宅建設	安村	4．25	1×2×0.7mを調査遺構・遺物なし

遺跡名	所在地	対象面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
田辺2001-3	田辺1丁目1100、1101、1102、1103	451.55	稲山美緒子	個人住宅建設	安村	6．11	1×1.5×0.6mを調査 本書P.16掲載
田辺2001-4	田辺1丁目 1089-5	78.37	有元靖	個人住宅建設	安村	8．6	1.5×1.5×0.4mを調査 本書P.17掲載
田辺2001-5	田辺2丁目 1231-51	70.69	平木隆	個人住宅建設	石田	8．29	1×1×0.5mを調査 本書P.19掲載
田辺2001-6	田辺2丁目 1231-58	92.02	大橋賢司	個人住宅建設	石田	8．29	1×1×0.5mを調査 本書P.19掲載
田辺2001-7	国分本町6丁目 1472-2	180.40	大塩禎也	個人住宅建設	安村	9．11	1.5×1.5×0.5mを調査 本書P.20掲載
田辺2001-8	田辺2丁目 1316-3	103.29	柏原市水道事業管理者 大木恭司	上水道施設加圧ポンプ棟建設	安村	9．17 ～ 10．9	3×4×0.9mを調査 遺構・遺物なし
田辺2001-9	国分本町7丁目 1875	189.68	福島輝昭	個人住宅建設	安村	9．18	1.5×1.5×0.75mを調査 本書P.21掲載
田辺2001-10	田辺2丁目 1170-1他13筆	5,732.62	松原建設（株） （代）八木孝	宅地造成	石田	11.19	0.5×1×1mを調査 遺構・遺物なし

但し2001年1月1日から12月31日に実施した調査

〔集落跡〕
1．本郷遺跡
2．船橋遺跡
3．大県郡条里遺構
4．山ノ井遺跡
5．平野遺跡
6．大県遺跡
7．大県南遺跡
8．太平寺遺跡
9．安堂遺跡
10．高井田遺跡
11．青谷遺跡
12．鳥取千軒遺跡
13．高尾山山頂遺跡
14．石川町遺物包蔵他
15．玉手山遺跡
16．円明遺跡
17．原山遺跡
18．奥山遺跡
19．田辺遺跡

〔古墳群・古墓群〕
A．平尾山古墳群
B．高井田横穴群
C．玉手山古墳群
D．安福寺横穴群
E．玉手山東横穴群
F．円明古墓群
G．誉田山古墳群
H．田辺古墳群
I．松岳山古墳群
J．芝山古墳群
K．北峯古墳群

〔寺院跡〕
① 船橋廃寺
② 法善寺廃寺
③ 平野廃寺
④ 大県廃寺
⑤ 大県南廃寺
⑥ 太平寺廃寺
⑦ 安堂廃寺
⑧ 高井田廃寺
⑨ 片山廃寺
⑩ 玉手廃寺
⑪ 円明廃寺
⑫ 五十村廃寺
⑬ 原山廃寺
⑭ 田辺廃寺
⑮ 河内国分尼寺跡
⑯ 河内国分寺跡
⑰ 東条尾平廃寺

図－1　柏原市内遺跡分布図

第１章　柏原市内遺跡の概要

１．概要

柏原市は、大阪府の南東部に位置する人口約８万人の衛星都市である。東は奈良県に接し、行政的には中河内地域にあたるが、古来よりむしろ南河内地域との関係が深い地である。市域の半分以上を山地や丘陵が占め、市の中心部を一級河川の大和川が流れるという地形にある。この大和川や山越えの竜田道などによって、大和との窓口としても重要な位置を占めてきた。現在も、ＪＲ大和路線、近鉄大阪線、国道25号線、国道165号線、西名阪自動車道など交通の要衝となっている。

このような地域であるため歴史的文化遺産も数多く認められ、とくに遺跡の密度は目を見張るものがある。市域では、宝永元年（1704）に付け替えられた大和川の旧流路、およびその氾濫原以外は、ほとんど遺跡として把握され、とりわけ大和に都のあった奈良時代以前の遺跡に注目するべきものが多い。

柏原市内の遺跡は、集落跡、古墳群・古墓群、寺院跡に大きく分けることができ、その大半の遺跡が古代を中心とする遺跡である。以下、市域を４地区に区分して、遺跡の状況を述べることにしたい。

２．市域北西部

現大和川の右岸、旧大和川の左岸にあたる。地形的には、羽曳野丘陵から伸びる微高地がさらに北へと伸びている地にあたる。ここでは本郷遺跡と船橋遺跡が知られている。どちらも縄文時代に始まる遺跡であり、晩期の船橋式土器の標識遺跡としても注目される。弥生時代から古墳時代にかけても多数の遺物が出土しており、本郷遺跡からは小銅鐸も出土している。船橋遺跡内には船橋廃寺と呼ばれる古代寺院跡があり、飛鳥寺と同笵の軒丸瓦が出土している。また、河内国府の推定地のひとつにあげられている。この地は古代の志紀郡にあたり、条里制遺構も顕著に残っている。また、両遺跡の東縁を旧奈良街道（古代の渋川道）が通過している。

３．市域北東部

大和川の右岸にあたり、生駒山地西斜面と、その西に続く扇状地、大和川の氾濫原からなる地域で、柏原市内では遺構・遺物がもっとも顕著にみられる地域である。まず、生駒山地西麓の扇状地上には南北に遺跡が連続する。山麓部では、ナイフ形石器や有茎尖頭器が出土しており、大県遺跡周辺では早期の押型文土器など、各時期の縄文土器も出土する。弥生時代は平野遺跡と安堂遺跡を中心に、集落が存在したようである。古墳時代、とりわけ後期になると全域から多数の遺構・遺物が検出されており、なかでも大県・大県南遺跡では全国最大規模の鉄製品生産遺跡が確認されている。その一方で、各時期の集落の範囲や盛衰は、いまだに十分には確認できていない。また、東部の東山と呼ばれる一帯には、古墳時代後期の群集墳である平尾山古墳群が展開しており、その数は2000基にも達すると推定されている。史跡高井田横穴群も、畿内では例をみない横穴の密集地として著名である。さらに、平尾山古墳群内には古墳時代終末期の横口式石槨や終末期の群集墳・火葬

墓などもみられる。

飛鳥時代から奈良時代にかけては、難波宮へ行幸する天皇らが訪れた、河内六寺とも呼ばれる六つの古代寺院跡がみられる。さらには、竹原井頓宮跡と推定される青谷遺跡があり、安堂遺跡には智識寺南行宮が存在したと考えられている。また、高井田遺跡など7世紀代の大規模な集落跡もみられる。ただし、平安時代以降は急激に遺構・遺物が減少し、平安京遷都以後のこの地域の衰退ぶりを遺跡が如実に物語っている。

4．市域南西部

石川と原川に挟まれた玉手山丘陵を中心とする地域である。玉手山丘陵からは旧石器の出土が報告され、丘陵西麓からは縄文時代の土偶が出土している。弥生時代の遺物も多くはないが認められ、銅鐸も出土している。また、丘陵上からは弥生時代後期の住居跡なども検出され、高地性集落と考えてよいであろう。古墳時代前期になると、十数基の前方後円墳によって構成される玉手山古墳群が展開する。しかし、これに伴う集落は今のところ確認されていない。古墳時代後期になると、少数ではあるが、後期古墳が確認されており、安福寺横穴群・玉手山東横穴群も知られている。また、丘陵南西部には安宿郡の郡衙遺構かと推定される円明遺跡が存在する。片山廃寺や五十村廃寺、円明廃寺などの古代寺院跡も知られている。

この地域の南東部、関西女子短期大学が立地する台地上には、原山廃寺という古代寺院を中心に古代の原山遺跡の存在をみる。さらに、その南東には最近の調査で発見された弥生時代の石器製作遺跡である奥山遺跡と古墳時代後期の誉田山古墳群が知られている。

5．市域南東部

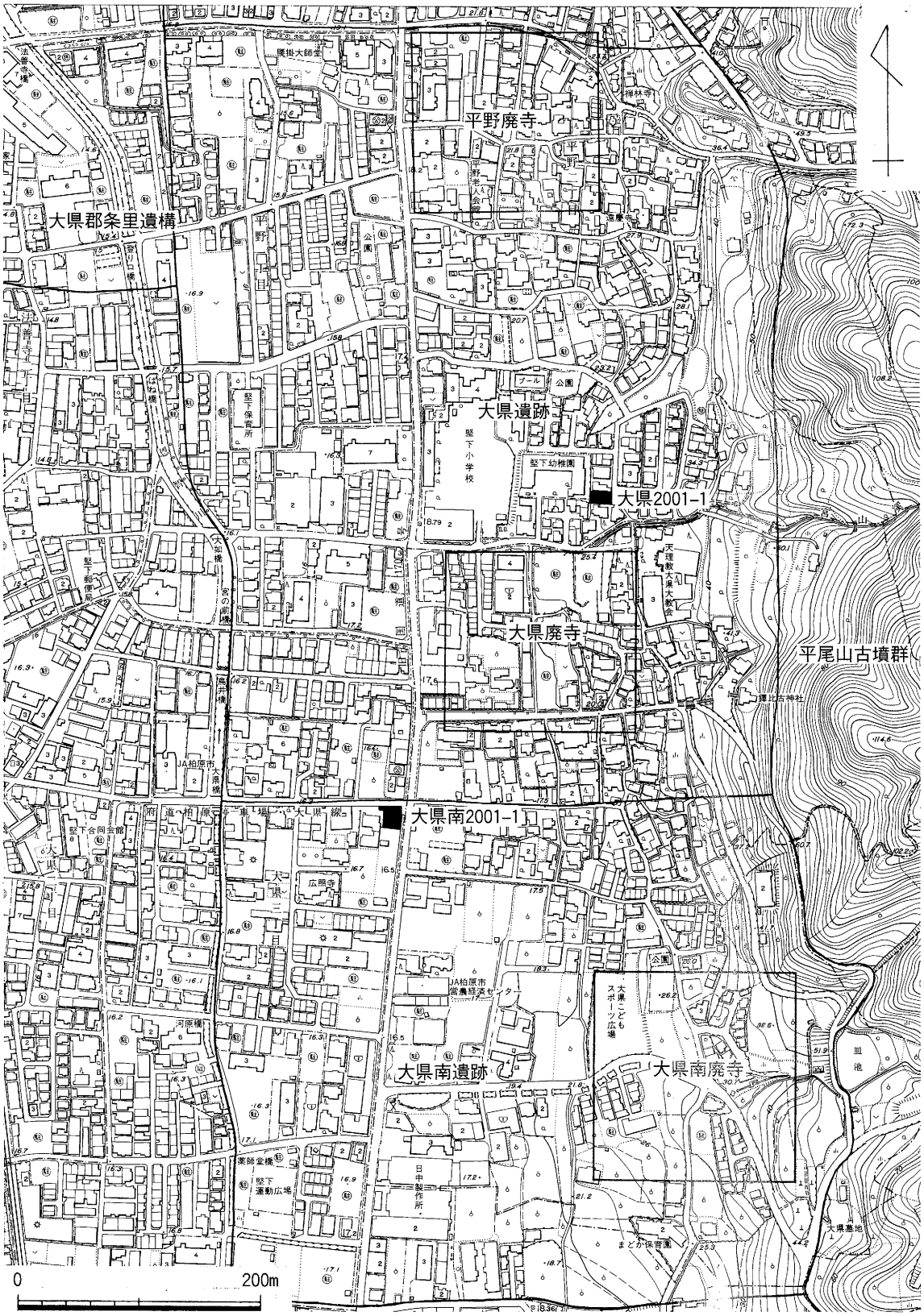
明神山系とそれに連なる田辺台地を中心とする地域である。大和川左岸に接する史跡松岳山古墳は古墳時代前期の前方後円墳であり、その周辺には同時期の小規模な古墳が数基存在したようである。田辺遺跡は古墳時代以降、史跡田辺廃寺とその周辺に集落遺跡がひろがり、田辺古墳群・古墓群などもみられる。その背後の北峯古墳群にも古墳時代後期から終末期の古墳がみられる。また、この地域には河内国分寺・国分尼寺が存在することも重視されよう。

6．本年度の調査

本年度は、市域北西部ではまったく発掘調査が実施されず、立会調査のみの実施で、遺構・遺物はまったく認められなかった。市域北東部では、例年多数の調査が実施される大県遺跡周辺で調査が少なく、安堂遺跡で4件の調査が実施されている。ここでも顕著な遺構・遺物は確認されていないが、平尾山古墳群内の唯一の調査では古墳1基が調査されている。市域南西部では、大阪市立大学によって玉手山7号墳の範囲確認調査が実施され、本市教育委員会も全面的に協力を行った。また、玉手山遺跡では4件の調査が実施され、少量の遺物などが確認されている。市域南東部では、田辺遺跡で10件の調査が実施されている。その一部で、掘立柱建物の柱穴などが確認されている。

この1年間は、届出件数・調査件数ともに例年になく少なかった。そのため、調査成果もあまりあがっていないが、調査が少ないということは、それだけ破壊された遺跡も少なかったということであり、積極的に評価したいと考えている。

第２章　大県遺跡



図－２　大県遺跡・大県南遺跡調査対象地位置図

2001－1次調査

・調査対象地　　柏原市平野2丁目221－18

・調査期間　　2001年7月24日

・調査面積　　1.1㎡／176.55㎡

・調査担当者　　安村　俊史

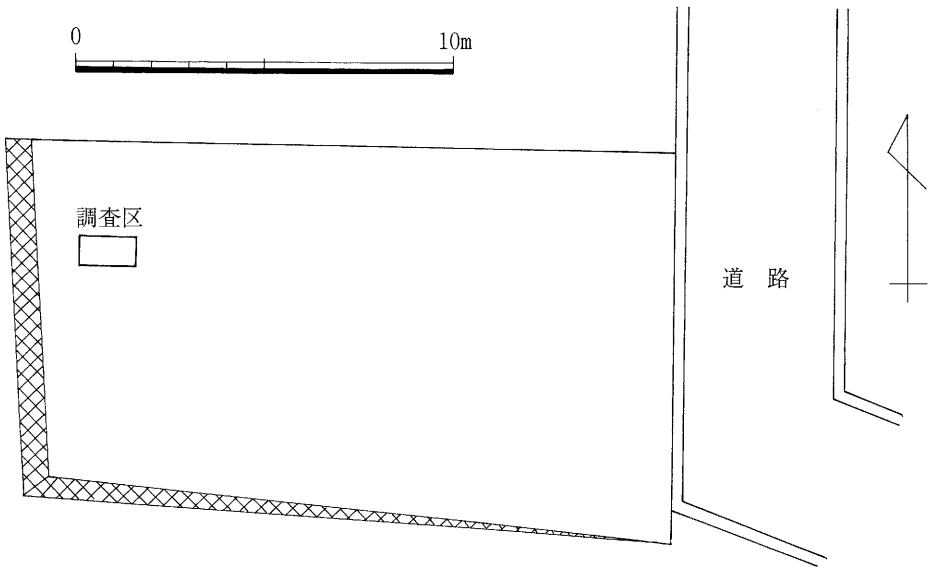
調査地は市立堅下幼稚園のすぐ東に位置し、周辺では古墳時代を中心とする多数の遺構・遺物が出土している。とりわけ、鍛冶関係の遺物の出土は注目されるものである。今回の調査地は、西へ傾斜する山麓部にあたり、調査地の西側は高さ2m以上のコンクリート擁壁によって画され、大きく落ち込んでいる。

今回の計画では、既設建物の西側、すなわちコンクリート擁壁の側に建物を増築するというものであったため、調査対象地の北西部に調査区を設定した。工事の関係上、調査区の制約があり、調査区は0.7m×1.5mという小規模なものにならざるを得なかった。

土層は、地表下20cmまでは既設建物建設に伴うと思われる盛土がみられ、その下層に建物建築前の旧耕作土がみられた。掘削は50cmまで行なったが、依然旧耕作土が続いており、地形から考えると、これ以上の掘り下げを行なってもあまり状況の変化はないと予想された。そのため、建物基礎工事で掘削予定の50cmの深さで調査を終了することにした。

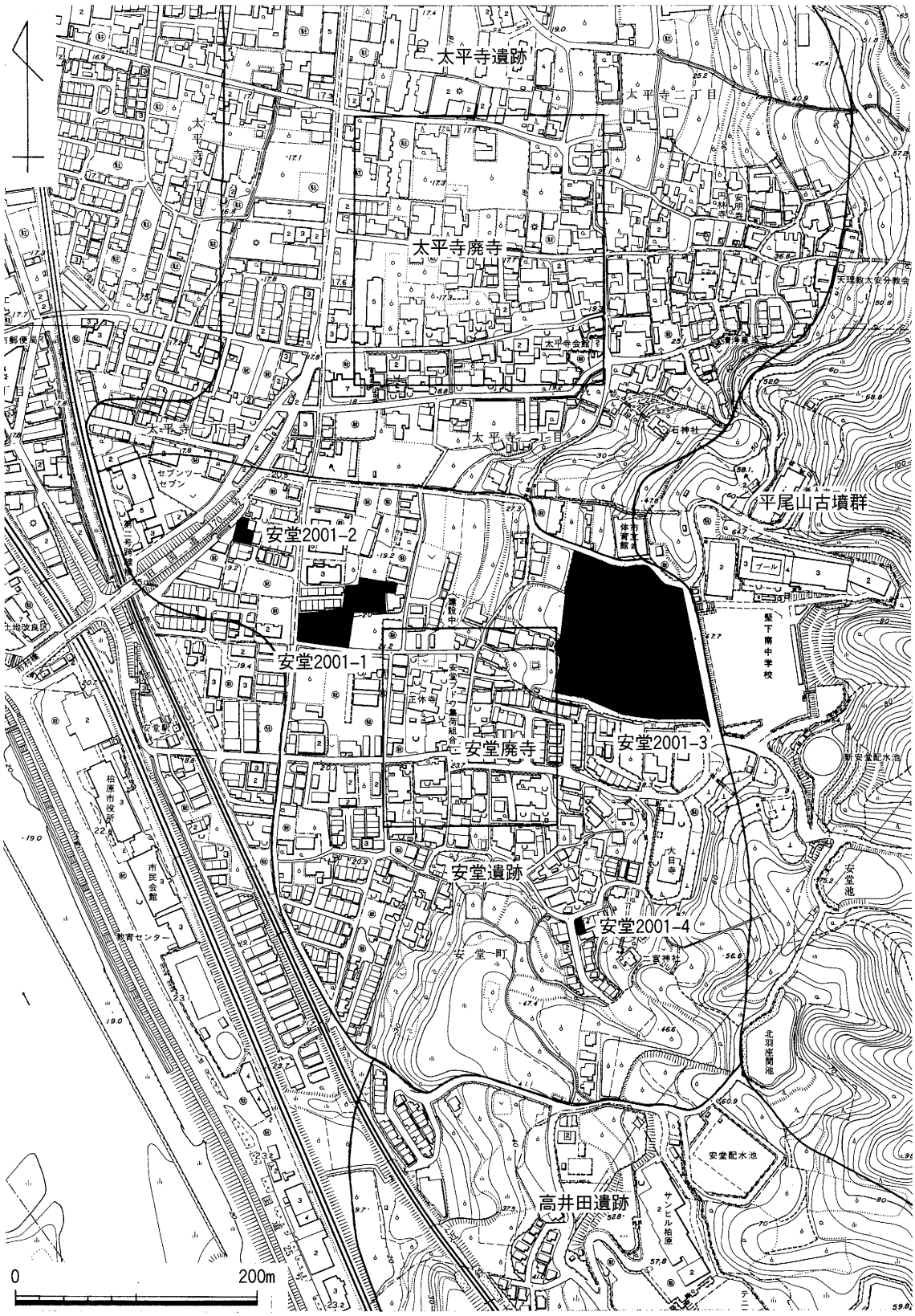
当然のことながら、遺構・遺物は認められなかった。

周辺では宅地化が進んでおり、造成等によって、かなり地形が改変されている。今後、古墳時代の鍛冶関連遺構をはじめとする遺跡の広がりについて、的確に把握していく必要があると思われる地域である。



図－3　調査区位置図

第３章　安堂遺跡



図－４　安堂遺跡調査対象地位置図

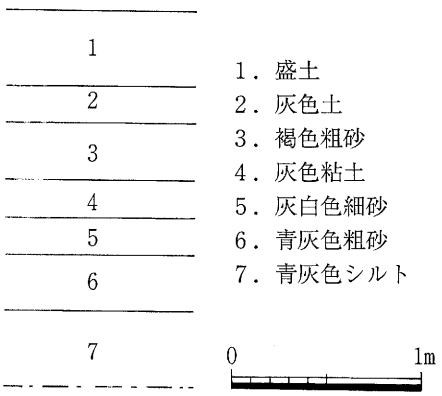
2001－2次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺1丁目141－1

・調査期間　　2001年5月10日

・調査面積　　2㎡／214.84㎡

・調査担当者　　安村　俊史

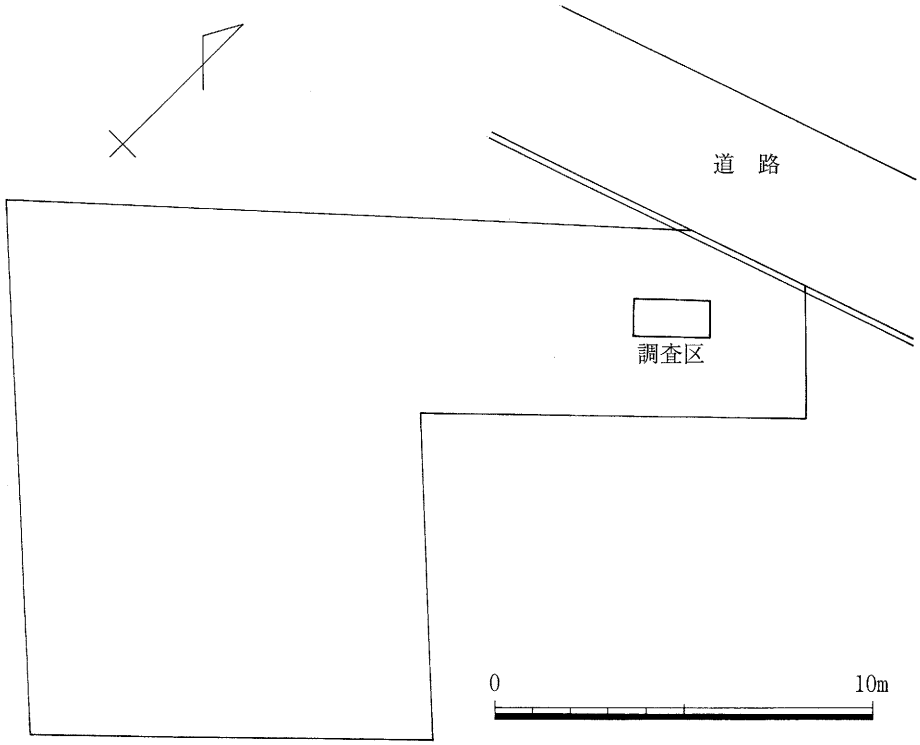


図－5　土層模式図

調査地は、安堂遺跡の北西部に位置し、かつて墨描人面土器などが出土した地点のすぐ南東にあたる。調査は、対象地の北端部付近、浄化槽埋設予定地に1m×2mの調査区を設定して実施した。なお、荒掘り掘削に際しては、施工業者から重機の提供を受けた。

土層は、地表下40cmまでは過去の宅地造成に伴う盛土、その下60cmまでは旧耕作土の灰色土、おそらくぶどう畑に伴う耕作土であろう。以下、褐色粗砂、灰色粘土、灰白色細砂と続き、いずれも遺物を含んでいない。おそらく、近世以降の大和川の氾濫と滞水に伴う土層と思われる。その下層には、130cmから160cmの深さに青灰色粗砂、それ以下に青灰色シルトがみられる。両層からは、少量ではあるが、7世紀から近世にかけての遺物が出土している。

遺物は、7世紀代のものとして、須恵器の杯蓋・杯身・壷・甕、土師器甕の小片がみられる。須恵器杯蓋は口縁内面にかえりを有する口径の小さいものであり、7世紀中葉頃のものであろう。須恵器杯身は低い高台を有する7世紀後葉頃のものであろう。これら以外に、中世の瓦器・土師器・瓦、近世の備前焼擂鉢の破片などが出土している。



図－6　調査区位置図

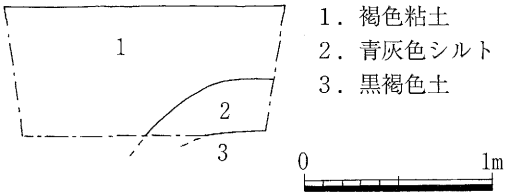
2001－4次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町338－11

・調査期間　　2001年7月17日

・調査面積　　2.3㎡／73.46㎡

・調査担当者　　安村　俊史

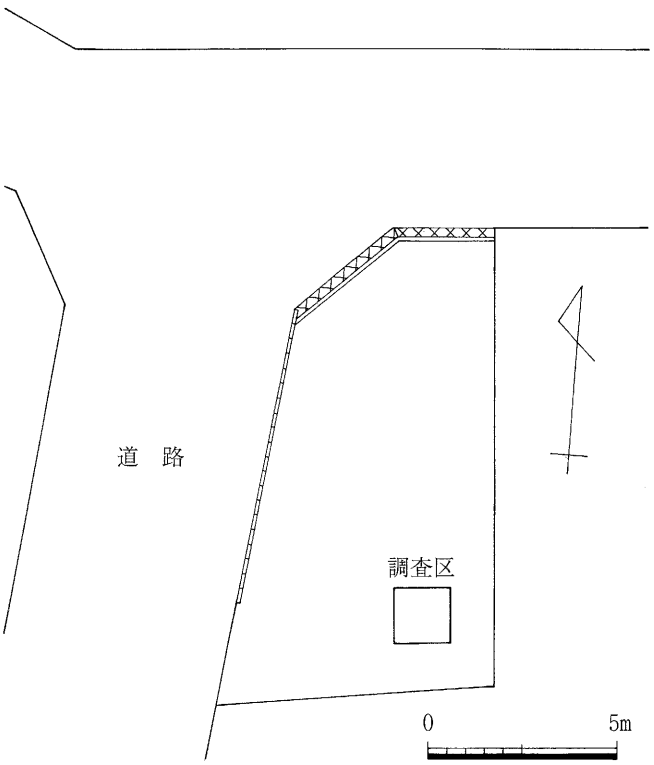


図－7　北壁土層図

調査地は、北へ開く浅い谷状の地形を呈し、東西両側には北へとのびる尾根が張り出している。したがって、北西へと傾斜する傾斜面を造成して数棟の住宅が建てられている。そのため、調査対象地の北西側は盛土が厚いであろうと判断し、対象地の南東部に調査区を設定して調査を実施することにした。

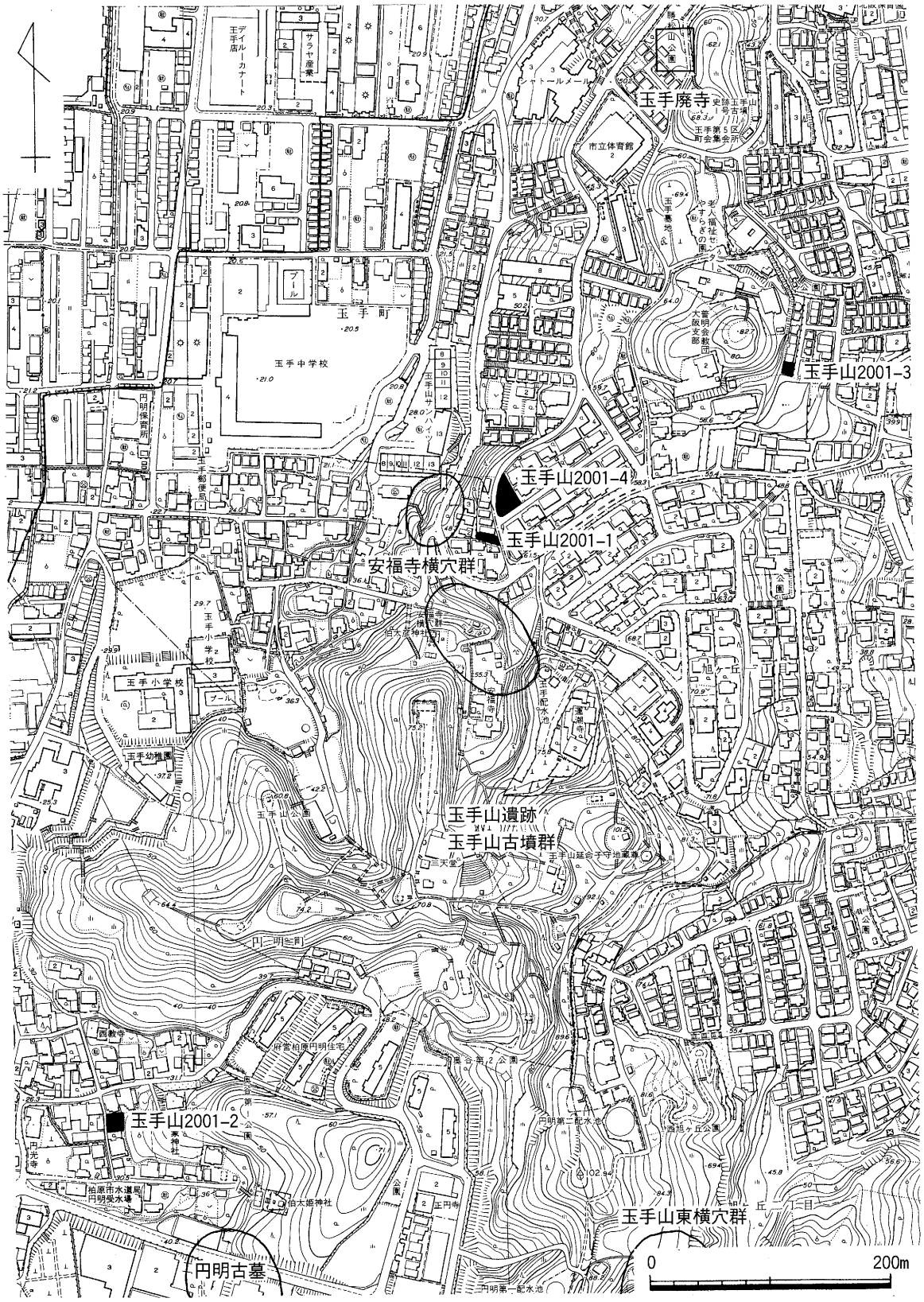
調査区は1.5m四方で、地表下70cmまで掘り下げた。その結果、調査区底面でようやく旧耕作土の黒褐色土に至り、建物基礎掘削深度の関係から、それ以上の掘り下げは行なわなかった。旧耕作土までは褐色粘質土、青灰色シルトがみられ、過去の造成に伴う盛土であると考えられる。この盛土は南東部の傾斜面を削平して盛ったものと考えられるが、かなり水分を含んだ粘性の高い土であり、周辺が湿潤な地であったことを窺わせる。対象地付近では、過去に相当大規模な盛土が実施されているようである。

この盛土内から、近世の瓦に混じって、7～8世紀頃と思われる須恵器・土師器の小片が数点出土している。近世の瓦は調査地東側に位置する大日寺、あるいは二宮神社に関連するものであろう。また、古代の土器は、調査対象地の南東部、現在の二宮神社周辺の尾根上に、古代の集落跡が存在することを推定させる遺物である。二宮神社周辺のぶどう畑となっている平坦面は、おそらく古代の集落跡と思われる。調査地の南250mで、サンヒル柏原建設に伴う調査によって、大規模な古代集落遺跡が確認されているが、その集落に関連することも考えられる。このように考えると、安堂遺跡ではなく、高井田遺跡の一角として把握することも必要かもしれない。今後の調査で注意する必要がある地域である。



図－8　調査区位置図

第４章　玉手山遺跡



図－９　玉手山遺跡調査対象地位置図

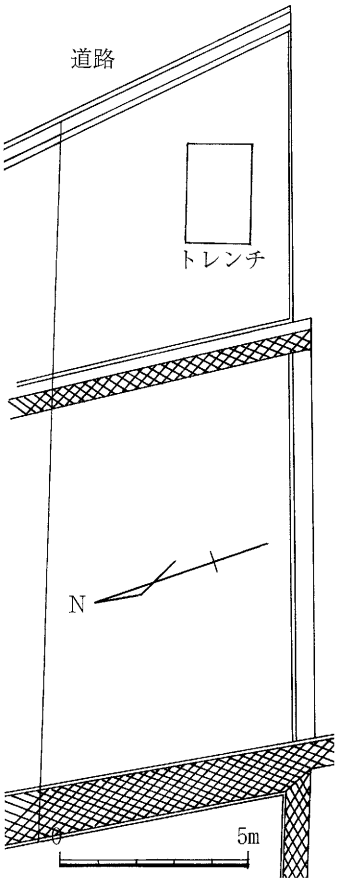
2001－1次調査

・調査対象地　　柏原市玉手町145－71

・調査期間　　2001年1月18日～22日

・調査面積　　4.7㎡／120.80㎡

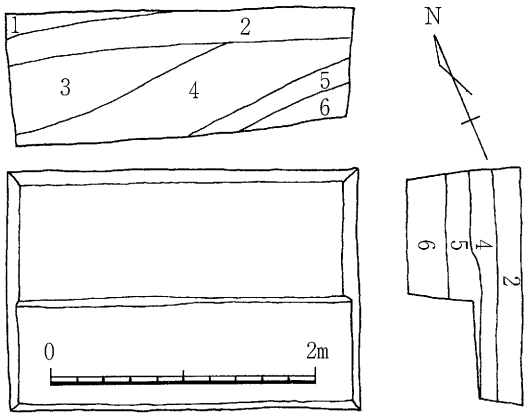
・調査担当者　　北野　重



図－10　調査区位置図

玉手山丘陵の北側から中央部にかけての地区は、40数年前に宅地造成が大規模に行われ、その土木工事に伴い古墳や集落遺跡の一部の発掘調査が行われている。当地区は、丘陵の上部には前期の玉手山4～6号墳があり、その後も中期の古墳や後期の安福寺横穴群が造られ、片山廃寺跡や火葬墓群など継続して遺跡が営まれ集中している。

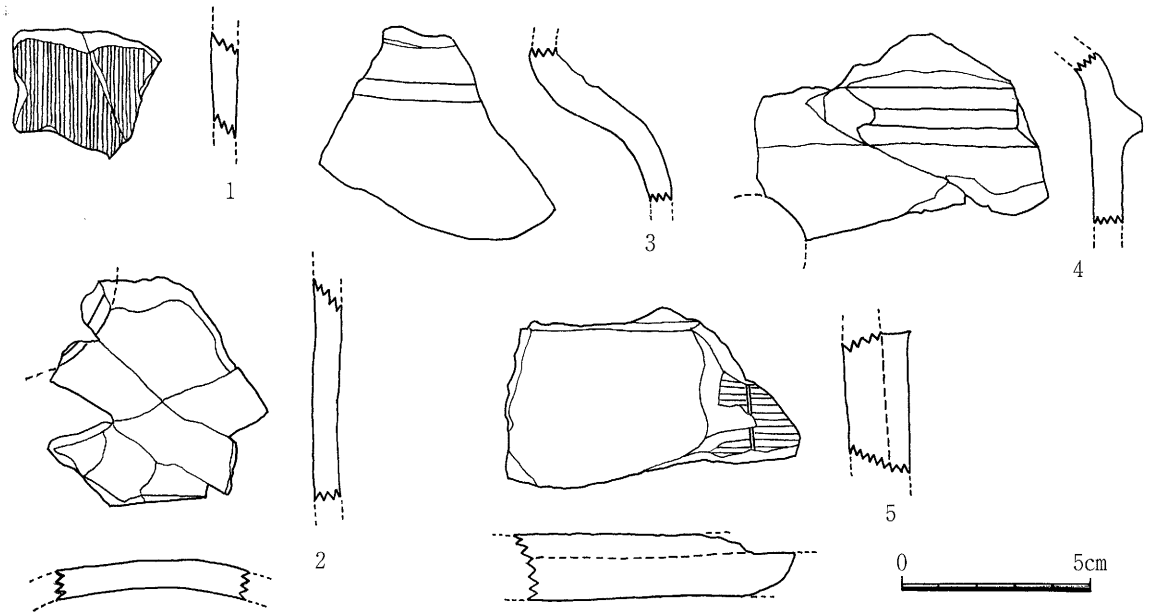
当調査区は、丘陵の西側上部で西側斜面も含まれている場所である。東西方向に長く延び両端の比高差が約10mを測る。当該地内の東側の高所に1.8×2.6mのトレンチを設定して調査した。約80cmを掘り下げたが、すべて造成の埋め立て土が確認され、遺跡深度が更に深くなると考えられ、トレンチの北半だけを掘削し終了した。土層は、6層に分層出来いずれも埋め土である。第1層は、凝灰岩風の黄褐色砂質土で西側一部で約20cmの厚さの土層である。第2層は、黄灰色砂質土で全体に広がり厚さ20cmを測る。第3層は、灰茶色粘質土と黄褐色砂礫土の混層で5～10cm大の礫を多く含んでいる。トレンチ中程から西側へ約40cmの厚さで埋められた土層で埴輪等少量の遺物が出土した。第4層は、黄褐色粘質土で厚さ約50cmを測る。第5層は、旧表土で黄褐色粘質土で20cmの厚さを測る。第6層は、薄茶灰色砂質土で30cm以上あり、更に深く堆積している。第3層から出土した埴輪は、宅地造成によって近隣の古墳から運ばれてきた遺物であり、最も近い古墳として玉手山4号墳があげられる。



1．黄褐色砂質土
2．黄灰色砂質土
3．灰茶色粘質土・黄褐色砂礫土
4．黄褐色粘質土
5．黄褐色粘質土
6．薄茶灰色砂質土

図－11　トレンチ平面図・断面図

今回の調査において出土した遺物は、宅地造成に伴って堆積した第3層の灰茶色粘質土と黄褐色砂礫土の混層から少量の埴輪が出土した。近隣する古墳から流



図－12　出土遺物

出した埴輪と考えられ、玉手山４号墳の可能性があり報告したい。

１は、円筒埴輪の破片。色調は、茶灰色、胎土は金雲母や石英、長石を含む。焼成は良好で仕上げは丁寧である。外面は縦方向のハケ目を施し、内面はナデ調整である。口径は不明である。

２は、円筒埴輪の破片である。色調は、薄茶灰色、胎土は、金雲母、石英、長石を含む。焼成は良好で仕上げは丁寧である。外面はナデ調整、内面はヘラナデである。破片の端部に円弧の線刻部分がある。透かしの痕跡か。

３は、朝顔形か壷形の形象埴輪で、Ｓ字状に屈曲した肩部の破片である。中程に幅0.7㎜の凹線が横方向に施されている。胎土は、金雲母、石英、長石を含む。外面はヘラナデ、内面はナデ調整である。

４は、朝顔形か壷形埴輪の形象埴輪の破片で中程に横方向の凸帯が付く。色調は、灰茶色、胎土は金雲母、石英、長石を含む。内外面共にナデ調整である。焼成は良好で仕上げは丁寧である。

５は、家形埴輪の破片である。小片のため縦横の方向は不明である。全体の厚さは約2.5㎝を測り、厚さ1.5㎝の板状土台と厚さ1.0㎝のやや薄い貼り付け板を二重に製作している。貼り付け板部の土台部分には刻み目とハケ目が施されている。色調は、茶灰色、胎土は、金雲母、石英、長石の砂粒を含む。焼成は良好で仕上げは丁寧である。

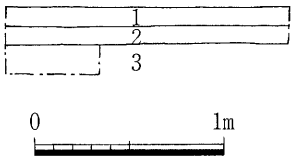
2001－4次調査

・調査対象地　柏原市玉手町364－14

・調査期間　2001年5月25日

・調査面積　2.3m²／441.04m²

・調査担当者　安村　俊史

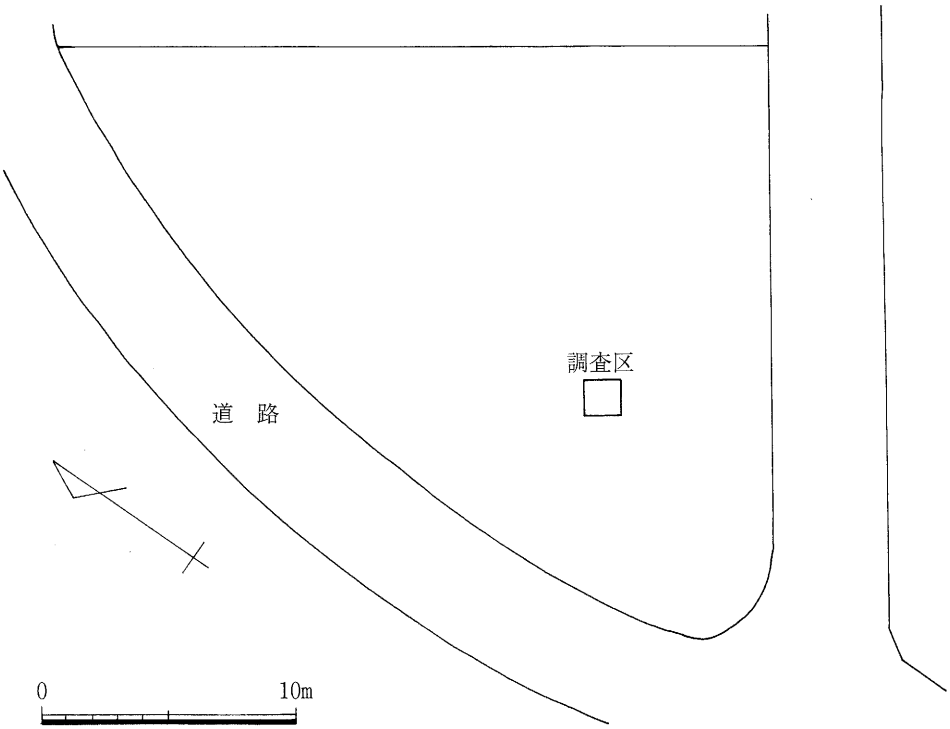


1．表土
2．灰褐色粘質土
3．明黄褐色粘質土〔地山〕

図－13　北壁土層図

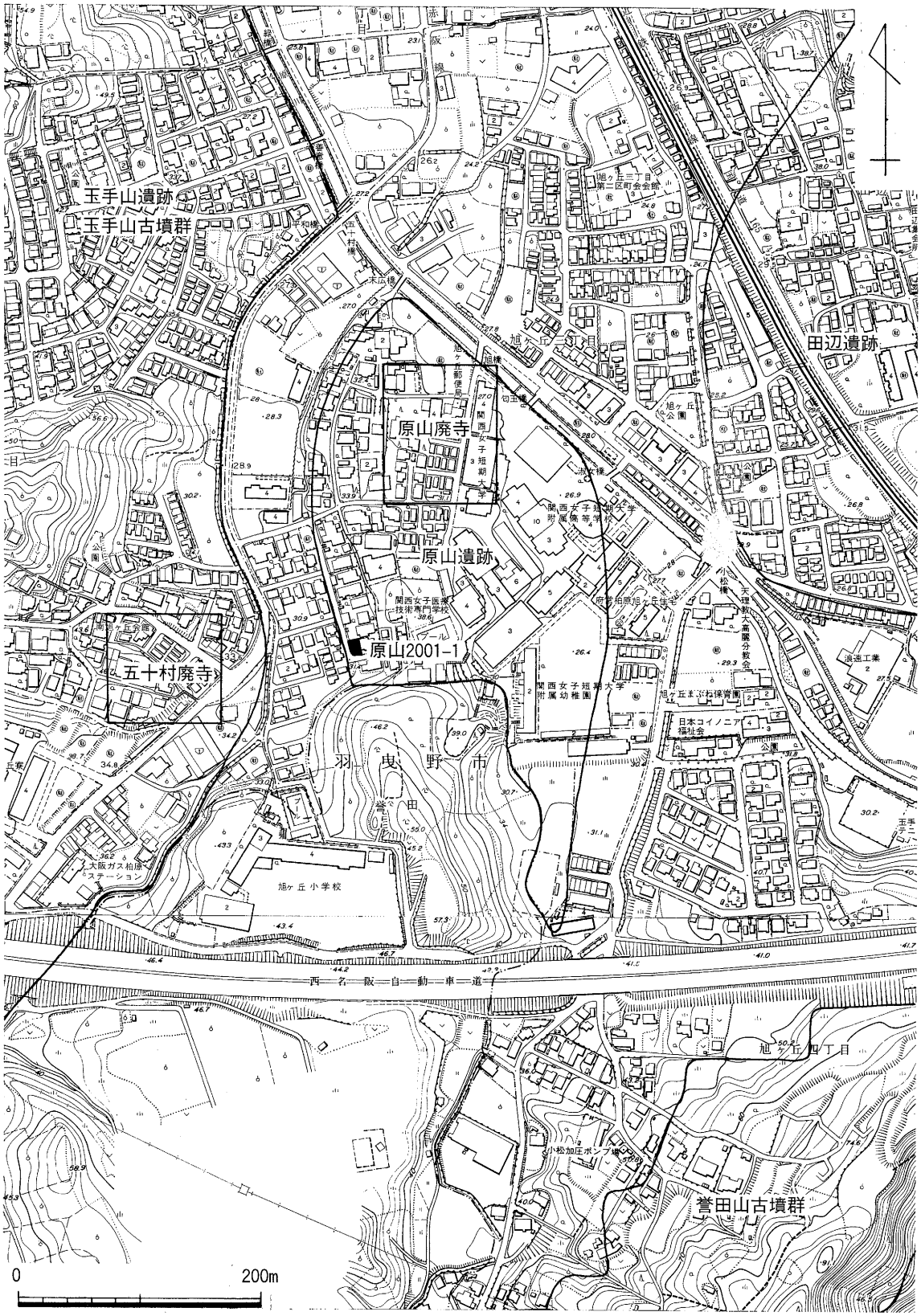
調査地は南北にのびる玉手山丘陵の尾根筋からやや西へ下った位置にあたり、かつて玉手山4号墳が存在した場所である。玉手山4号墳は、墳丘長50mを測る前方後円墳と報告され、今回の調査地は、その後円部の存在した地にあたる。玉手山4号墳は主体部のみの緊急調査が1960年に実施され、調査後に周辺は宅地造成された。その際に数mの削平を受けていると推定される。しかし、調査対象地のすぐ西には自然地形を留めている場所があり、玉手山4号墳に伴う何らかの遺物が検出されはしないかという期待のもとに調査を実施することになった。

調査は、できるだけ旧地形が残っている場所をと考え、調査対象地南西部に1.5m四方の調査区を設定して実施した。その結果、厚さ10cmの表土下に、造成時の整地土と思われる灰褐色粘質土がみられ、その直下、地表下わずか20cmで明黄褐色粘質土の地山を検出した。予想どおり、完全に削平を受けているようであり、玉手山4号墳に伴う遺物を期待するべくもなかった。なお、明黄褐色粘質土を一部掘り下げたところ、円礫を多量に含むことを確認しており、大阪層群と考えて間違いないであろう。やはり、調査地周辺の過去の造成は、かなり大規模なもののようであり、古墳は徹底的に削平されていることが確認された。



図－14　調査区位置図

第５章　原山遺跡



図－15　原山遺跡調査対象地位置図

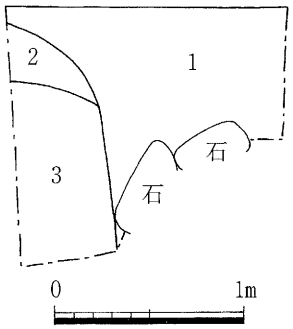
2001－１次調査

・調査対象地　　柏原市旭ケ丘３丁目1067－17の一部

・調査期間　　2001年12月３日

・調査面積　　2.3㎡／112.10㎡

・調査担当者　　安村　俊史



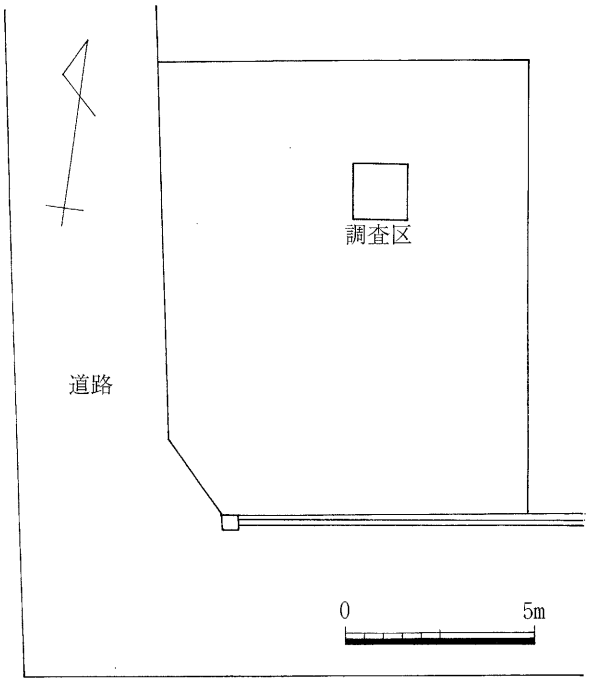
1．撹乱
2．旧表土
3．黄褐色粘質土〔盛土〕

図－16　北壁土層図

調査地は、原山遺跡の南西隅部にあたり、遺跡が立地する台地の西側斜面に相当する。調査は、調査対象地の北東部に、1.5m四方の調査区を設定して実施した。もっとも深い部分で、地表下140cmまで掘り下げたが、過去の宅地造成に伴う盛土が続いており、その下層の状況を確認することはできなかった。なお、調査区の北東部分は最近の大規模な撹乱がみられ、地表下70cm以下では40～50cmの大きさの花崗岩の自然石が数個埋没していた。おそらく、これらの巨石を処分するために掘られた撹乱と思われる。

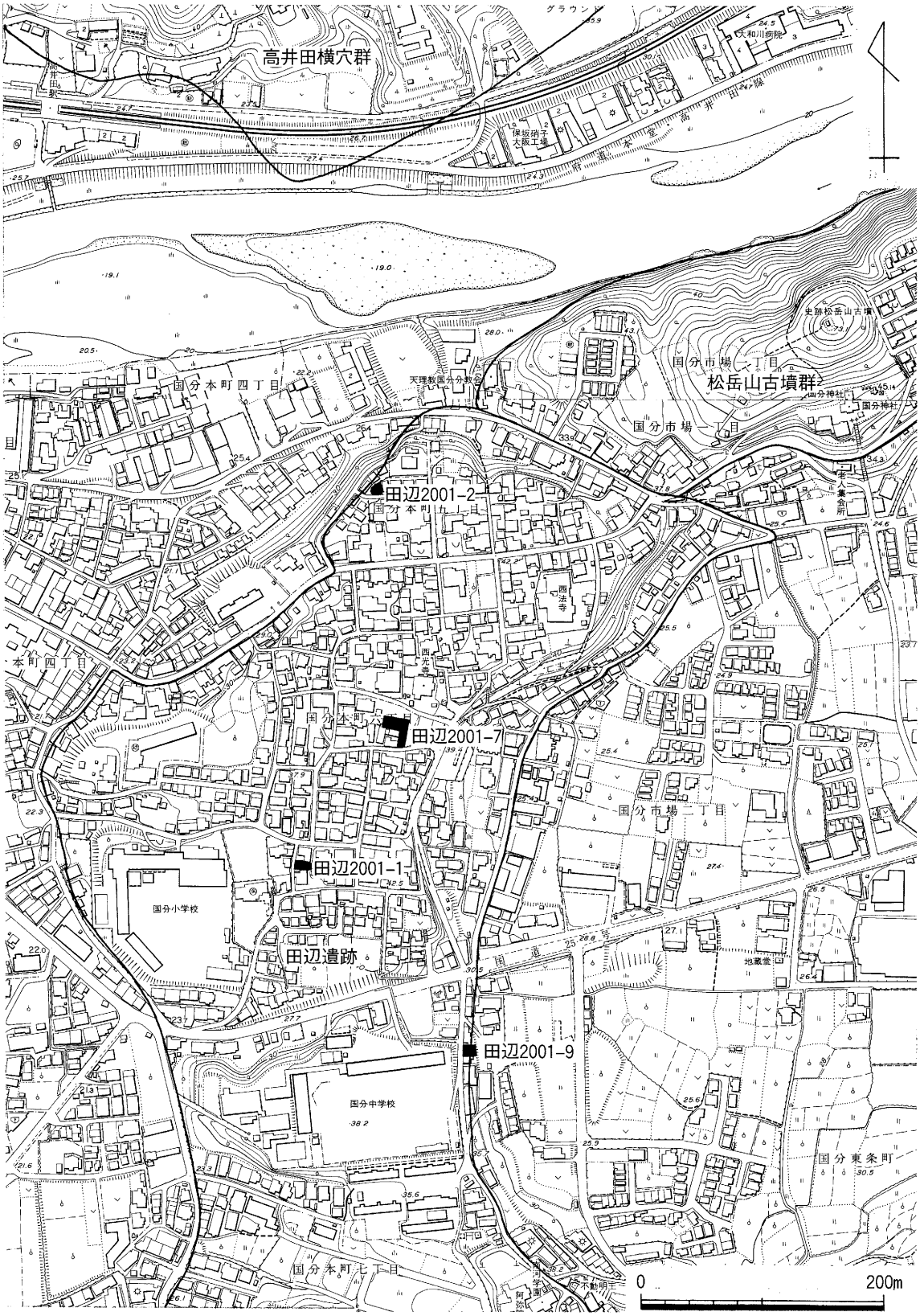
調査区を設定した位置と西側道路の比高差は約２ｍあり、調査対象地は、過去の宅地造成に伴ってかなり大規模な造成がなされているようである。その際の盛土が厚く、地山はさらに深いようである。当然のことながら、遺構・遺物は認められなかった。

これまでの調査によって、調査地の北東170m付近を中心に、１町弱の寺域を有する原山廃寺の存在が推定されており、集落の中心部は調査地の東100m付近を中心とした玉手山学園の敷地に広がっていると考えられる。しかし、過去の大規模な宅地造成によって、正確な寺域や集落域を確認できておらず、今回の調査で、集落の範囲を推定できる何らかの根拠が確認できないかと考えていたが、盛土が厚く、地山の高さを確認することさえできなかった。今後の調査に期待したいと考えている。

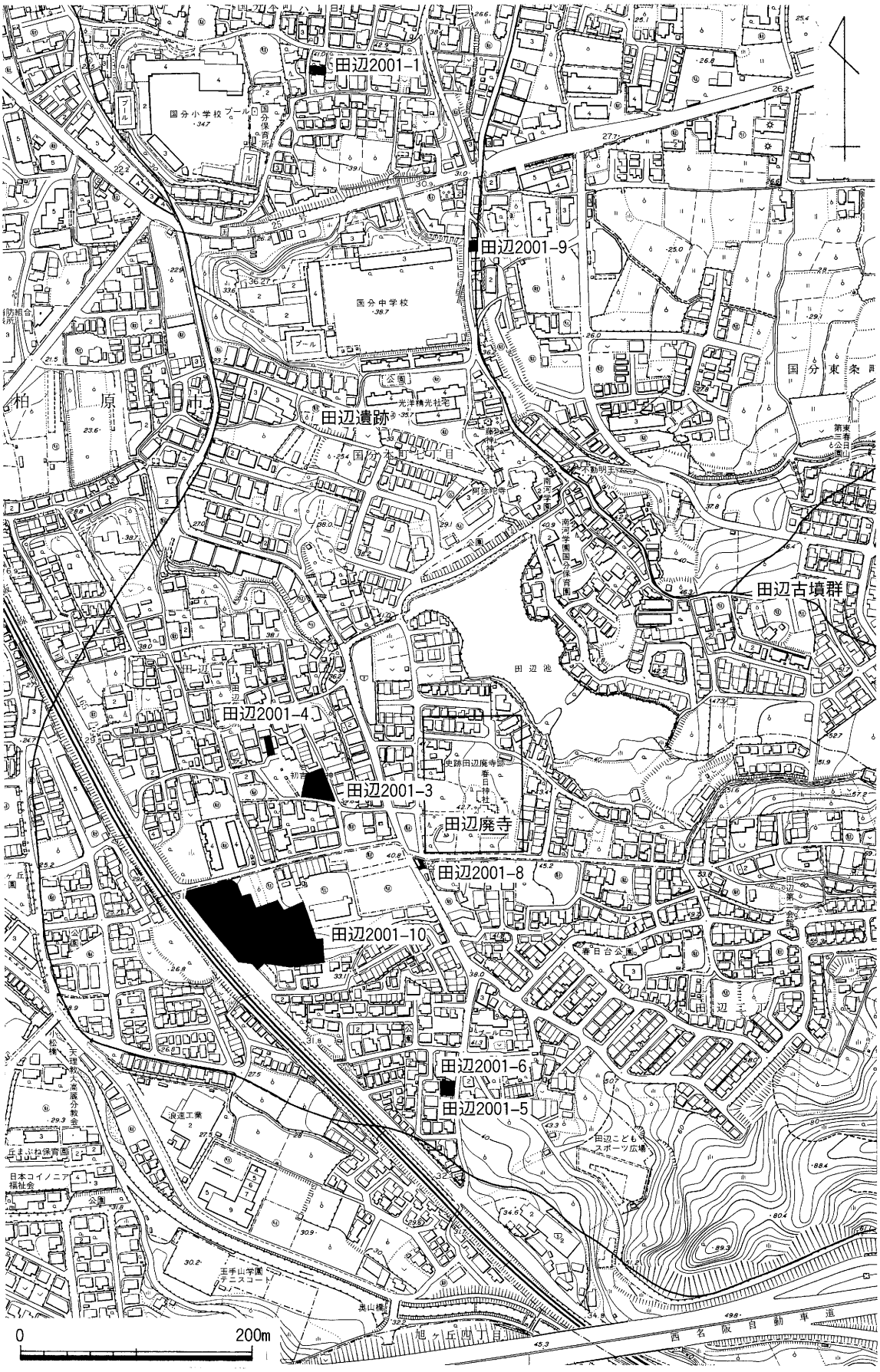


図－17　調査区位置図

第６章　田辺遺跡



図－18　田辺遺跡調査対象地位置図①



図－19　田辺遺跡調査対象地位置図②

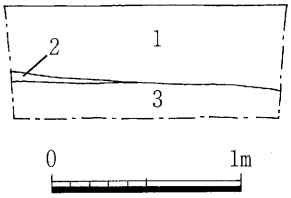
2001－3次調査

・調査対象地　柏原市田辺1丁目1100、1101、1102、1103

・調査期間　2001年6月11日

・調査面積　1.5㎡／451.5㎡

・調査担当者　安村　俊史



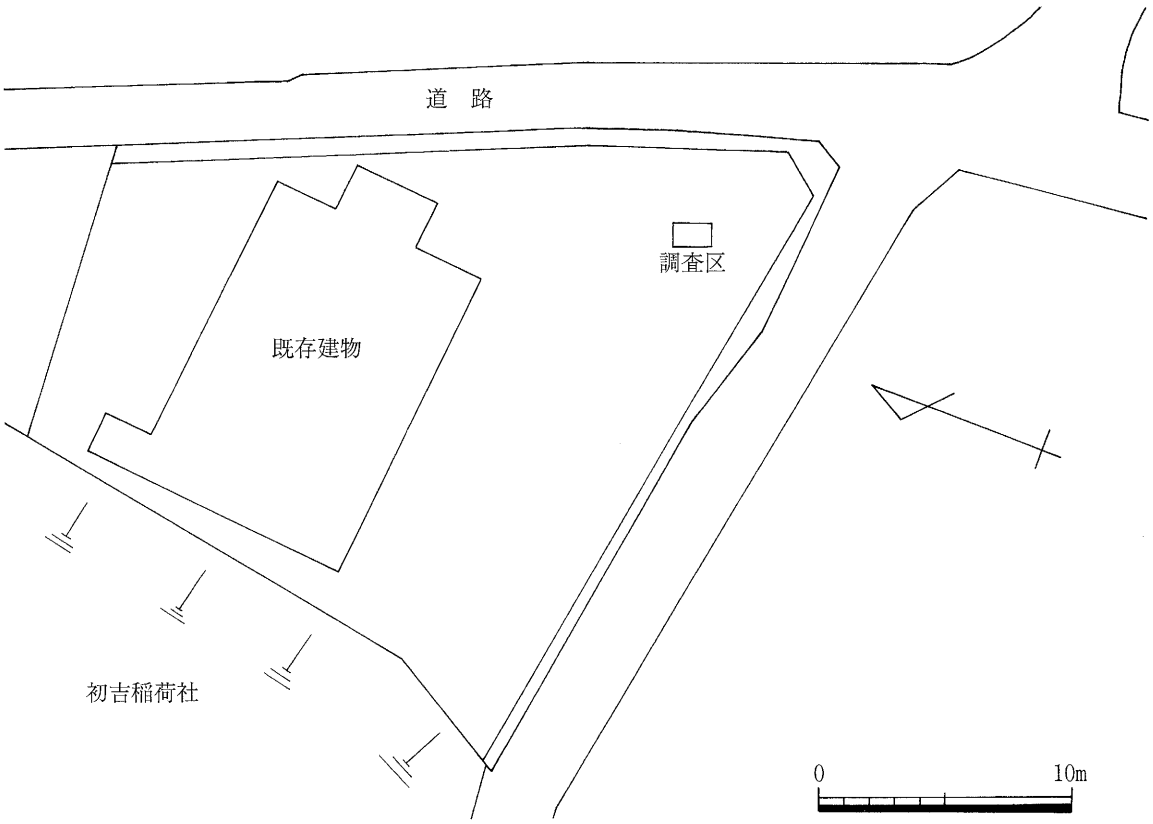
1.盛土
2.灰褐色砂質土
3.明黄褐色粘土〔地山〕

図－20　東壁土層図

調査地は史跡田辺廃寺の西100mに位置し、周辺では古代の集落跡がこれまでの調査で確認されている。また、調査地西側の初吉大明神の境内は、おいなり古墳という円墳とされている。しかし、これまでに古墳と確認できる遺構・遺物は確認されておらず、今回の調査で、古墳に関連するものが検出されることが期待された。

計画では、対象地南東部に建物を増築することになっていたため、その増築予定地に1m×1.5mの南北に長い調査区を設定して調査を実施した。調査の結果、地表下35～45cmまで最近の盛土がみられ、盛土下では調査区西端が撹乱を受けており、南半ではすぐに明黄褐色粘土の地山が確認された。調査区北半では、この地山上に灰褐色砂質土が堆積しており、この土層は北西側へと厚くなっているようである。土質や色調からは、遺物包含層であってもよさそうな土層であるが、調査区内では遺物はまったく出土していない。したがって、その時期も不明である。

今回の調査では、遺構・遺物はまったく確認されていない。



図－21　調査区位置図

2001－4次調査

・調査対象地　　柏原市田辺1丁目1089－5

・調査期間　　2001年8月6日

・調査面積　　2.3㎡／78.37㎡

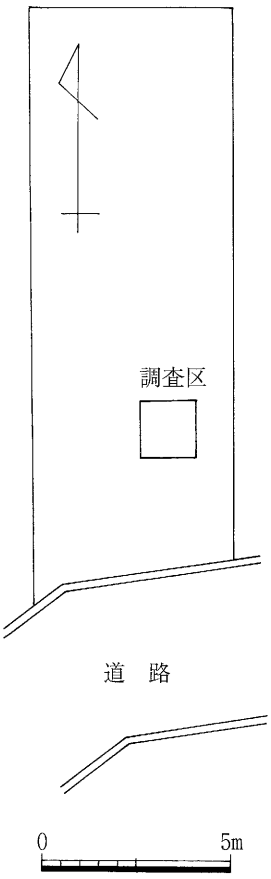
・調査担当者　　安村　俊史

調査地は、田辺廃寺の西方150m、2001－3次調査地の北西70mに位置する。円墳とされているおいなり古墳のすぐ北に位置し、調査前には、古墳の周溝や埴輪が確認されるのではないかと考えていた。

調査区は、対象地の南東部、おいなり古墳に近い位置に1.5m四方の規模で設定した。その結果、調査区南端で地表下35cm、北端では地表下50cmで黄褐色粘質土の地山が認められた。すなわち南から北へ、おいなり古墳から北側へと地山が下がっている。地山までは、最近の盛土である黒灰色粘質土と、やはり近代以降の盛土である褐色粘質土がみられ、それ以前の遺物包含層はみられなかった。

地山面では、掘立柱建物の柱穴と考えられる遺構が検出された。掘方は一辺80cm前後の隅丸方形平面を呈し、その軸は北から50°前後東に振っているようである。掘方の北東隅部は二段掘りになっている。柱跡は掘方の西端で確認された。柱の直径は約20cmの円形で、柱は西側へ抜き取られているようである。この柱跡から掘方を切って西側へ浅い掘り込みが続いているが、この部分を柱の抜き取り跡と考えて問題ないであろう。掘方の底は西側へと徐々に下がっており、もっとも深い部分で約30cmの深さを測る。調査区内では、この柱穴を確認したのみであるが、掘立柱建物を構成する柱穴と考えられる。掘方の埋土から縄目叩きを有する平瓦の小片が出土しており、その作り方から一枚作りで奈良時代のものと考えられる。奈良時代、もしくはやや時期の下る掘立柱建物と考えられる。

平瓦片は5cm×6cmの小片である。外面は黒灰色、断面は灰色を呈し、長石などの砂粒を少量含んでいる。凸面には1cmあたり4本の縄目が縦方向に全面に叩かれているようである。凹面は経糸8本／cm、緯糸10本／cmの布目が全面に残っている。広端面と思われる端面が一部残っており、ケズリの後にナデで仕上げられている。そして、凹面に模骨痕が認められないことから、一枚作りによる平瓦と考えられる。他の古代寺院出土の平瓦との比較から、奈良時代の平瓦と考えられる。田辺廃寺に伴うものであろうか。



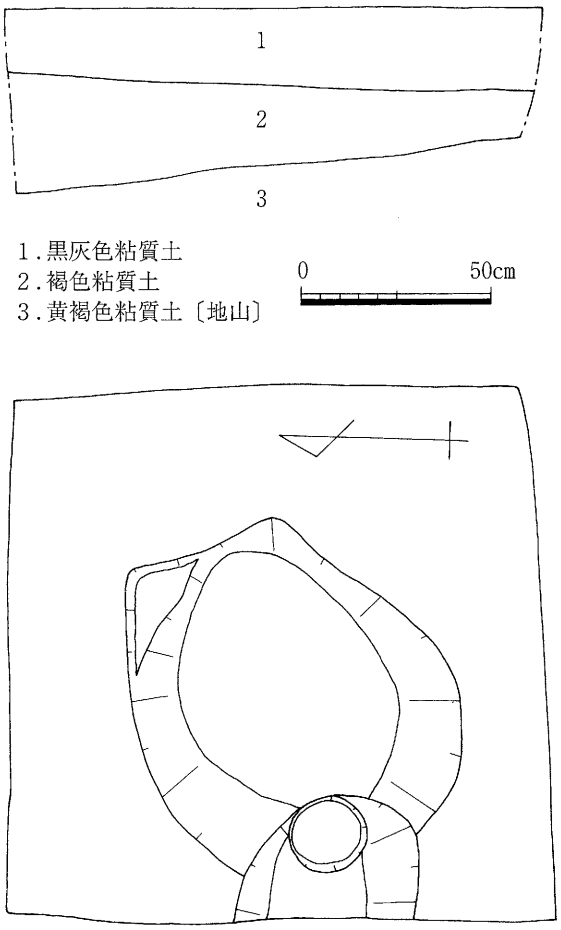
図－22　調査区位置図

これ以外には、盛土内から、瓦、土師質土器、陶器の小片が出土しており、いずれも時期を明らかにできるものではないが、盛土の年代は前

述のように近代以降のものである。

地山面で古代と考えられる遺構が検出されたが、地山は後世に少なからず削平を受けているようである。北へ下がっている傾斜も、本来の地形によるものか、後世の削平に伴うものか確認できない。また、調査前に期待していたおいなり古墳に関連するような遺構・遺物はまったく認められなかった。2001－3次調査とともに、おいなり古墳の性格については、今後の調査に持ち越しとなった。

建物基礎工事に伴う掘削深度が地山面に達しないことから、これ以上の調査範囲の拡張は行なっていない。



図－23　土層図・平面図

2001－5次調査

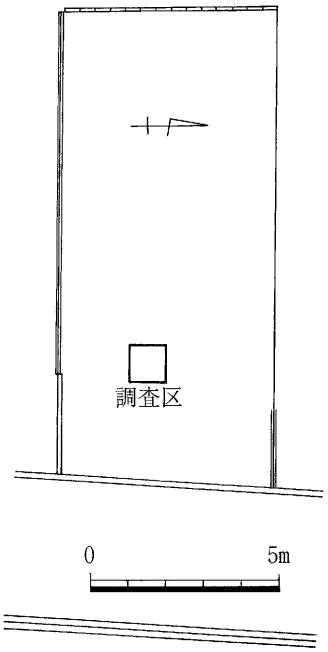
・調査対象地　　柏原市田辺2丁目1231－51

・調査期間　　2001年8月29日

・調査面積　　1.0㎡／70.69㎡

・調査担当者　　石田　成年

当該地は田辺廃寺から南へ250mの田辺遺跡の南端近くに位置する。対象地の原地形は西向きに傾斜すると思われることから、調査区はできるだけ東寄りに設定することとし、東南隅を人力により現地表下50cmまで掘削した。従前の建物建築時に伴う新しい盛土で、遺構、遺物とも認められなかった。



図－24　調査区位置図

2001－6次調査

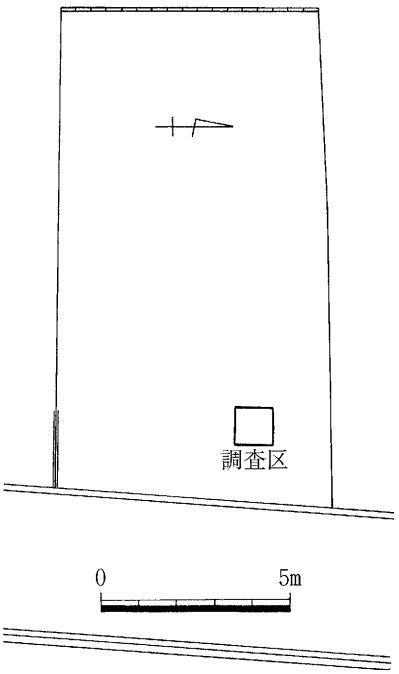
・調査対象地　　柏原市田辺2丁目1231－58

・調査期間　　2001年8月29日

・調査面積　　1.0㎡／92.02㎡

・調査担当者　　石田　成年

当該地は前述の2001－5次調査地の北側にあたり、同一敷地である。対象地の東北隅を人力により現地表下60cmまで掘削した。2001－5次調査区と同様新しい盛土で、遺構、遺物とも認められなかった。



図－25　調査区位置図

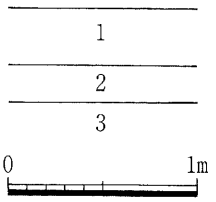
2001－7次調査

・調査対象地　柏原市国分本町6丁目1472－2

・調査期間　2001年9月11日

・調査面積　2.3㎡／180.40㎡

・調査担当者　安村　俊史



1.黒灰色土
2.灰色粘質土
3.暗黄褐色粘質土
〔地山〕

図－26　土層模式図

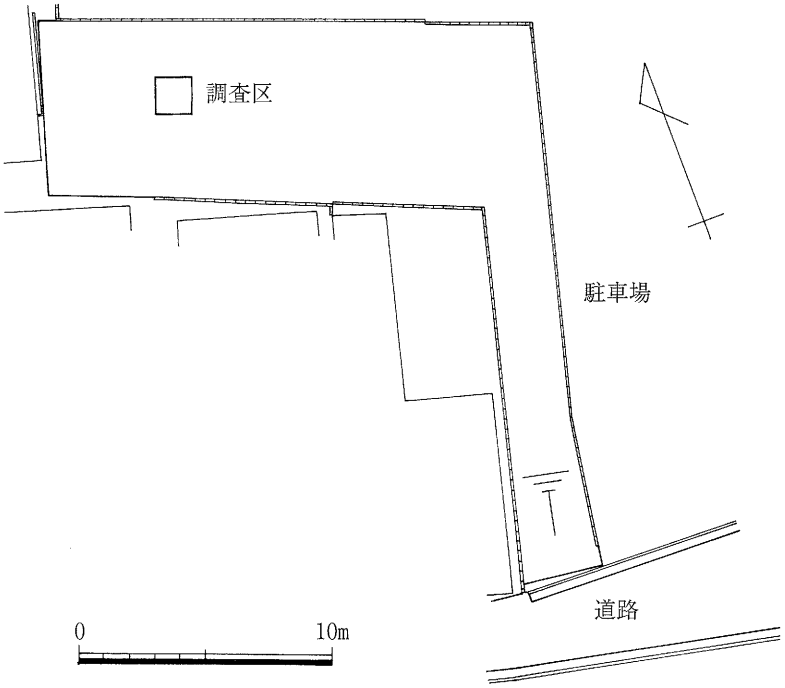
調査地は田辺遺跡の北部に位置し、周辺ではもっとも標高の高い部分にあたる。

調査は、対象地の西寄りに1.5m四方の調査区を設定して実施した。その結果、地表下30cmまでは黒灰色土、その下50cmまでは灰色粘質土、その直下で暗黄褐色粘質土の地山に至る。黒灰色土は最近の盛土と思われる。灰色粘質土には、近世から近代の瓦片が多量に含まれている。かなり大形の瓦もみられ、おそらく、すぐ北側に位置する西光寺の建物に伴うものであろう。

地山面には若干の凹凸が認められ、褐色粘質土が部分的に認められた。この褐色粘質土からは少量の遺物が出土しており、遺物包含層と考えられる。地山面の状況からは遺構の底部が部分的に残っているとも考えられ、いずれにしても、後世に削平を受けているようである。

遺物は、土師器高坏の脚部などが出土しており、7世紀代のものかと思われる。これとともに、中世の土師質土釜と考えられる小片も出土している。したがって、褐色粘質土は中世の遺物包含層と判断される。

周辺には古代・中世の遺構が存在する可能性が高いと思われるが、建物の基礎掘削工事が地山面までおよばないため、これ以上の調査範囲の拡張は行なっていない。



図－27　調査区位置図

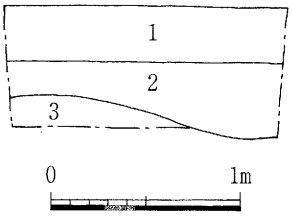
2001－9次調査

・調査対象地　　柏原市国分本町7丁目1875

・調査期間　　2001年9月18日

・調査面積　　2.3㎡／189.68㎡

・調査担当者　　安村　俊史



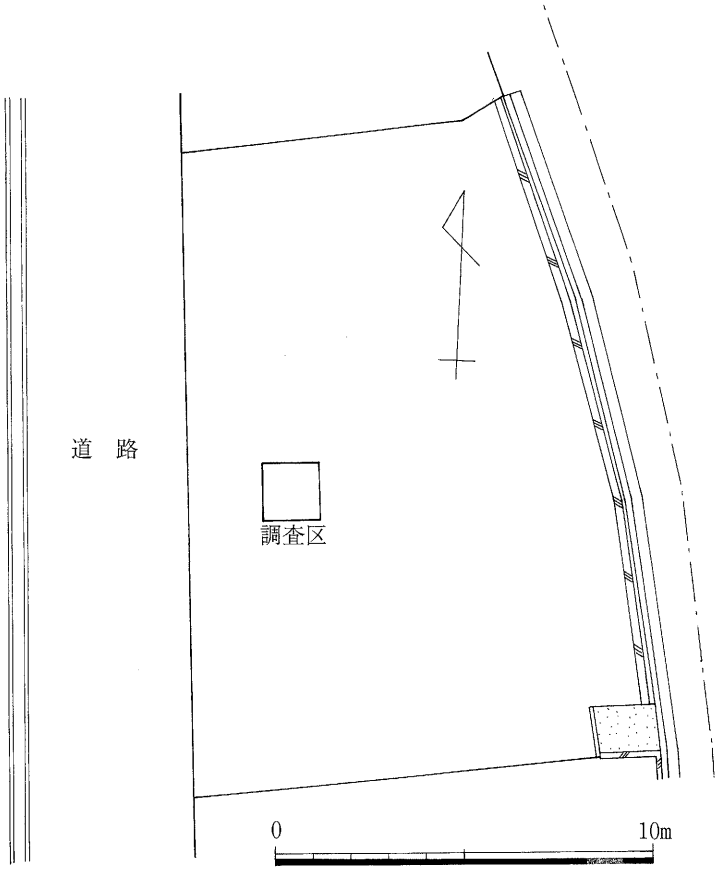
1.盛土
2.褐色粘質土
3.黄褐色粘質土〔地山〕

図－28　北壁土層図

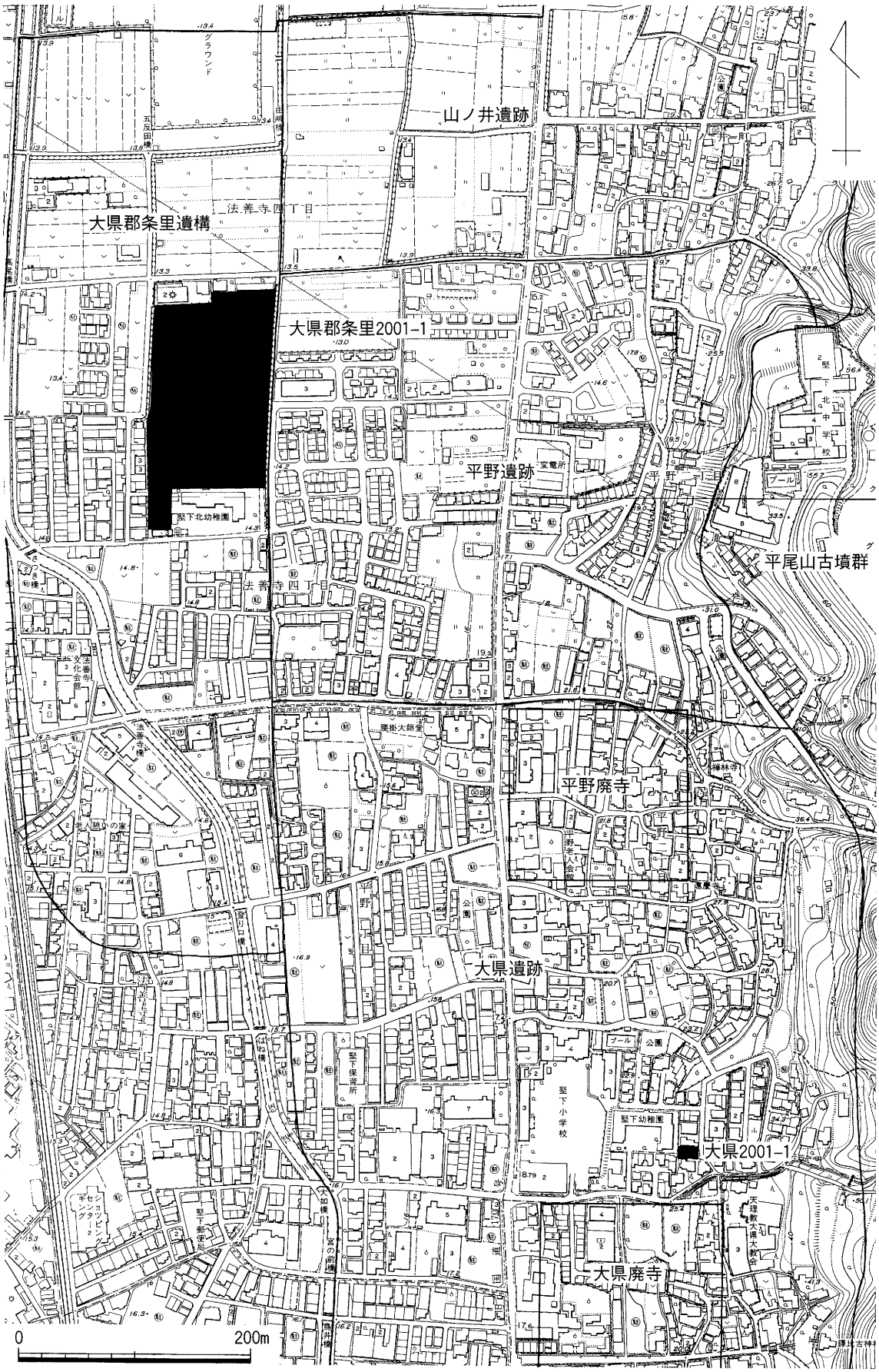
調査地は、南から北へとのびる田辺台地の東斜面、急激に落ち込む台地肩部に位置し、田辺遺跡推定範囲の東側境界線上にもあたる。したがって、遺構や遺物が確認される可能性は低いと考えられたが、地下室の建設など大規模な工事が計画されていたため、事前に調査を実施することにしたものである。

調査は、調査対象地の中央やや西寄りに1.5m四方の調査区を設定して実施した。その結果、地表下30cmまでは最近の盛土、その下に褐色粘質土がみられ、その直下に黄褐色または黄灰色粘質土の地山がみられた。地山検出面は北西部でもっとも高く地表下65cm、南東部でもっとも低く地表下90cmを測る。すなわち、地山は南へ、東へと下がっていることがわかる。

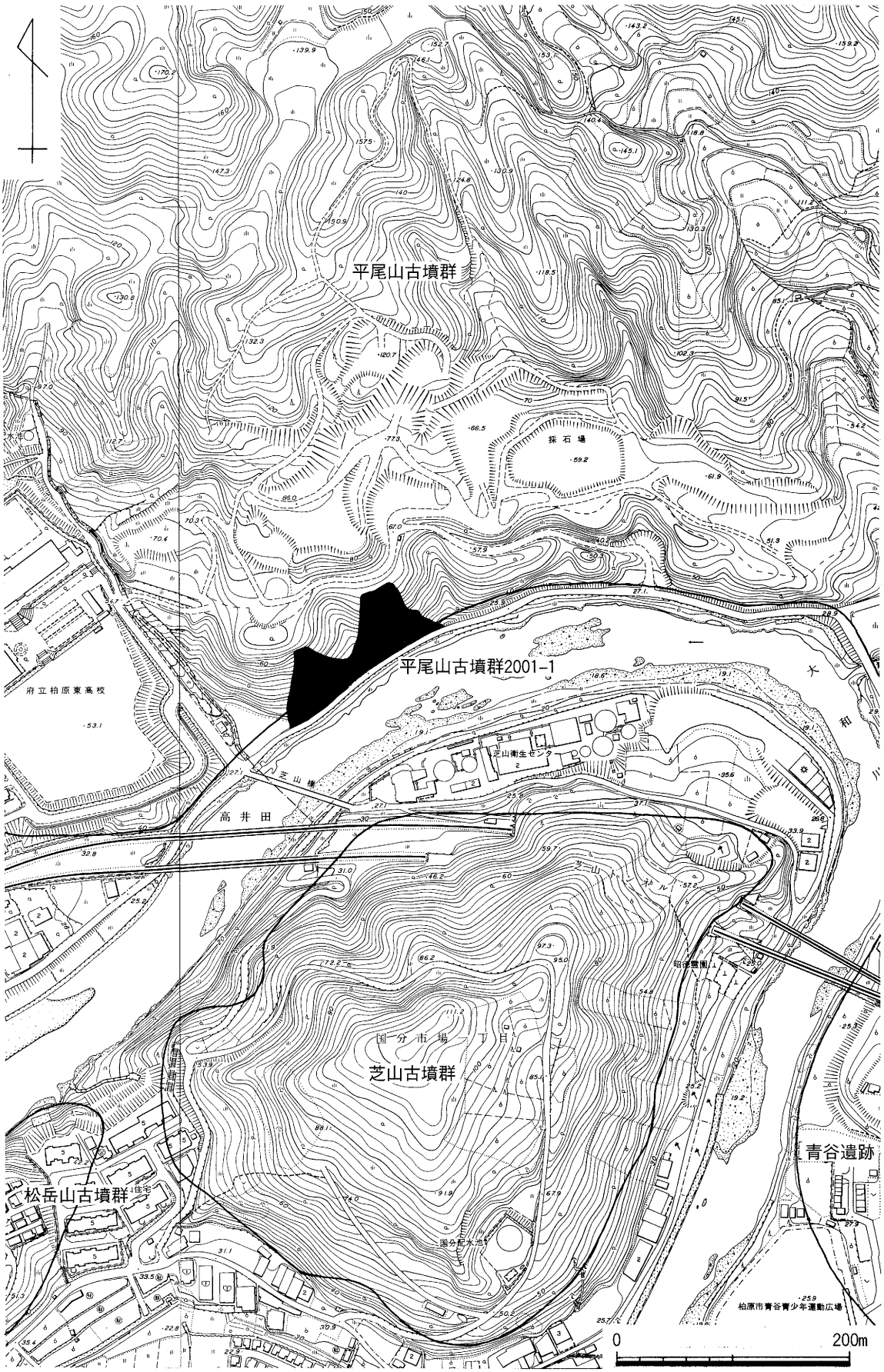
遺構・遺物はまったく認められなかったため、本調査をもって、調査終了とした。



図－29　調査区位置図



図－30　大県郡条里遺構調査対象地位置図



図－31　平尾山古墳群調査対象地位置図

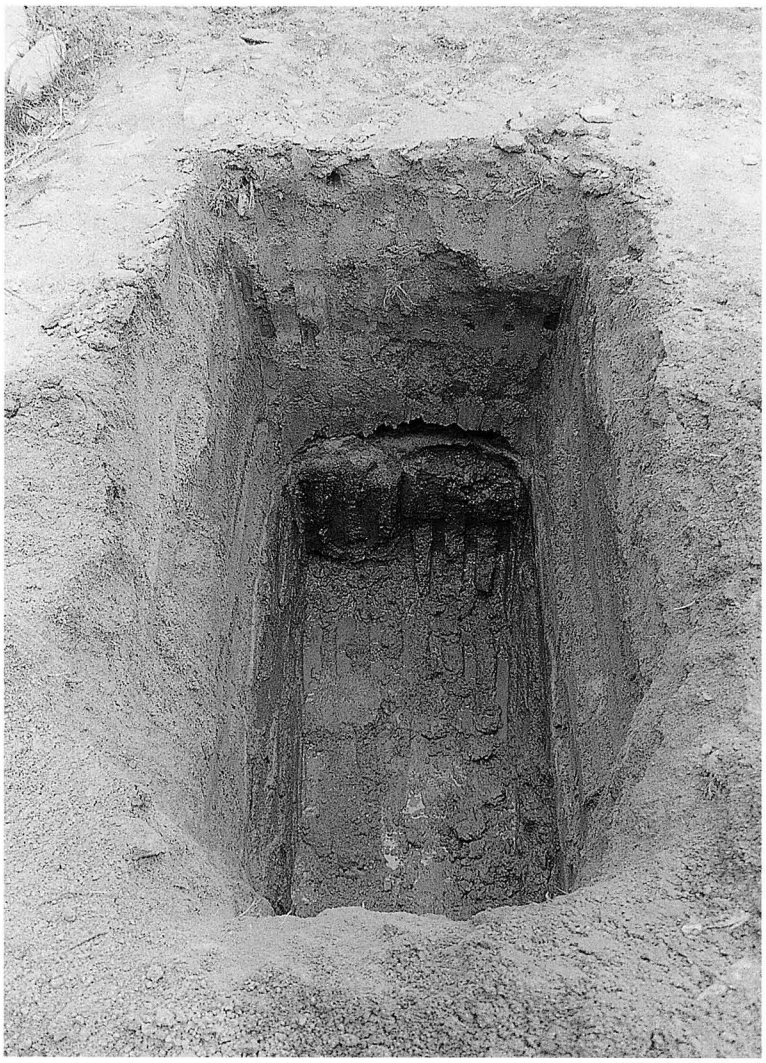
図　　版

図版１　大県遺跡2001―１次調査

東から

南から

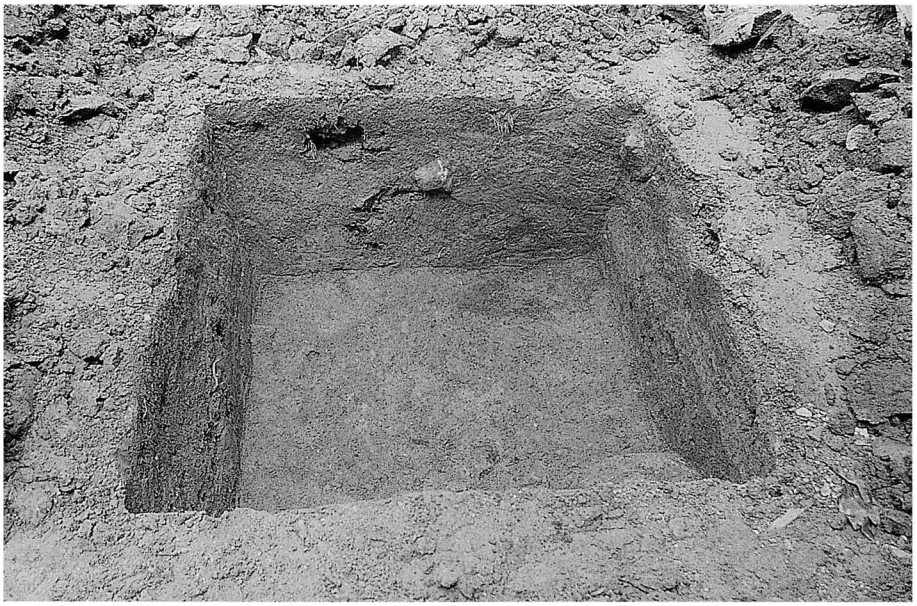
図版２　安堂遺跡2001―２次調査



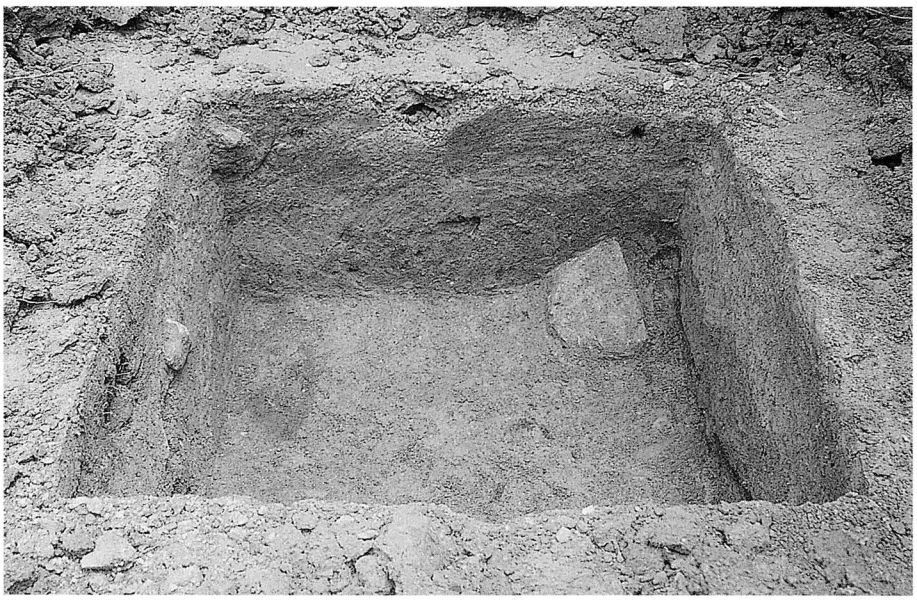
北から

西から

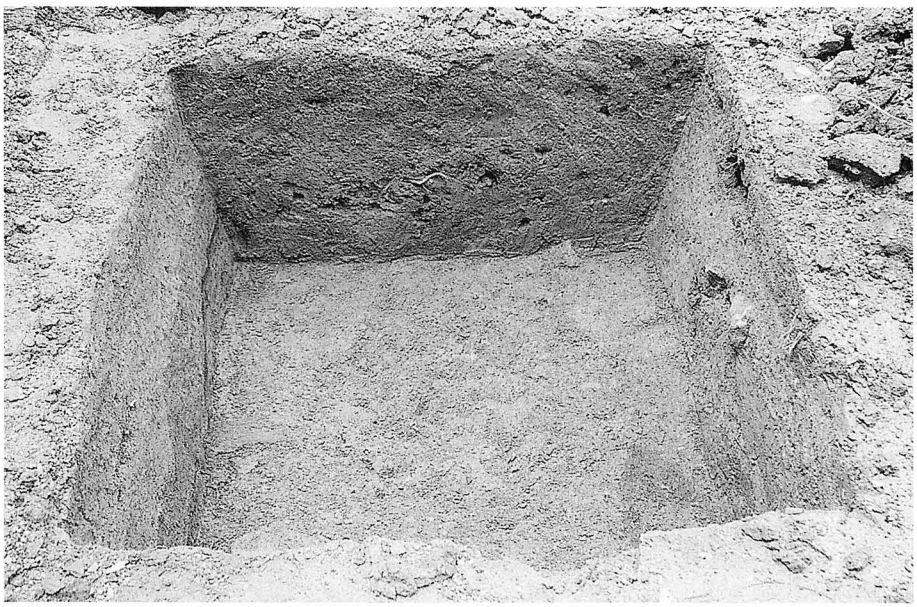
図版３　安堂遺跡2001―４次調査



南から

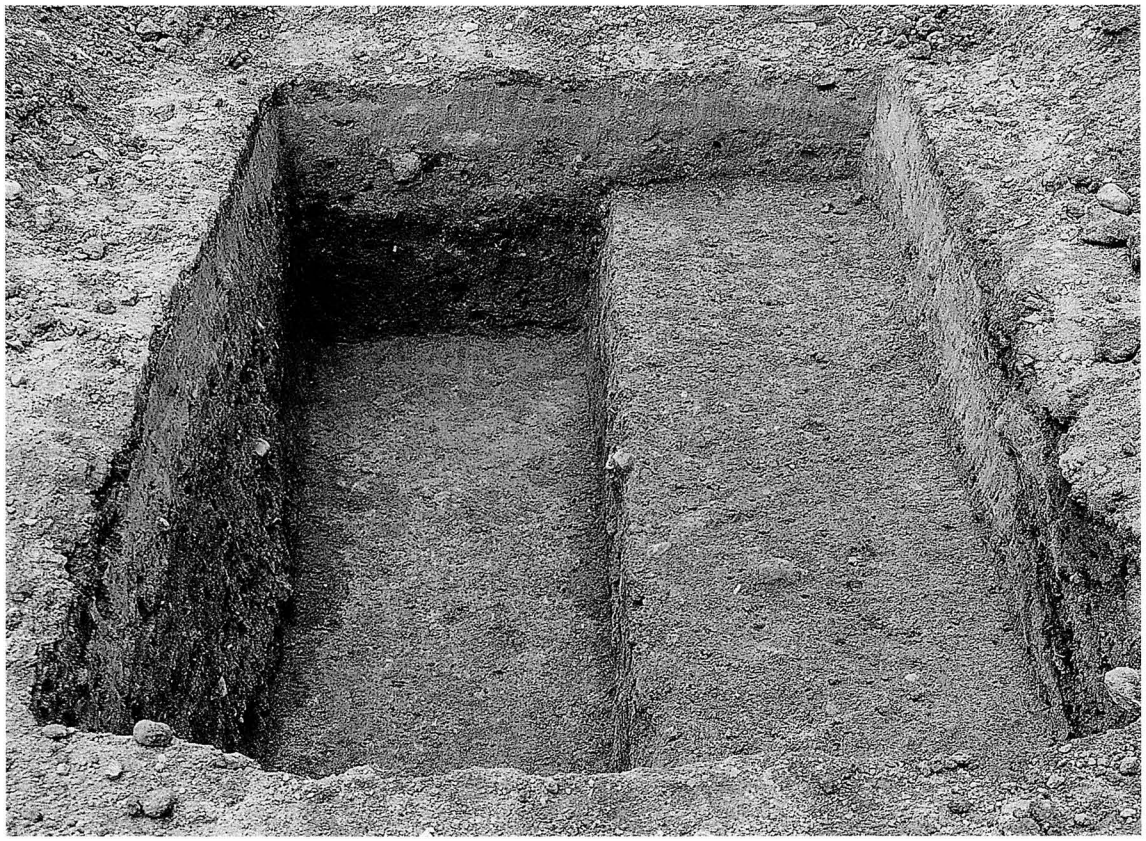


西から



東から

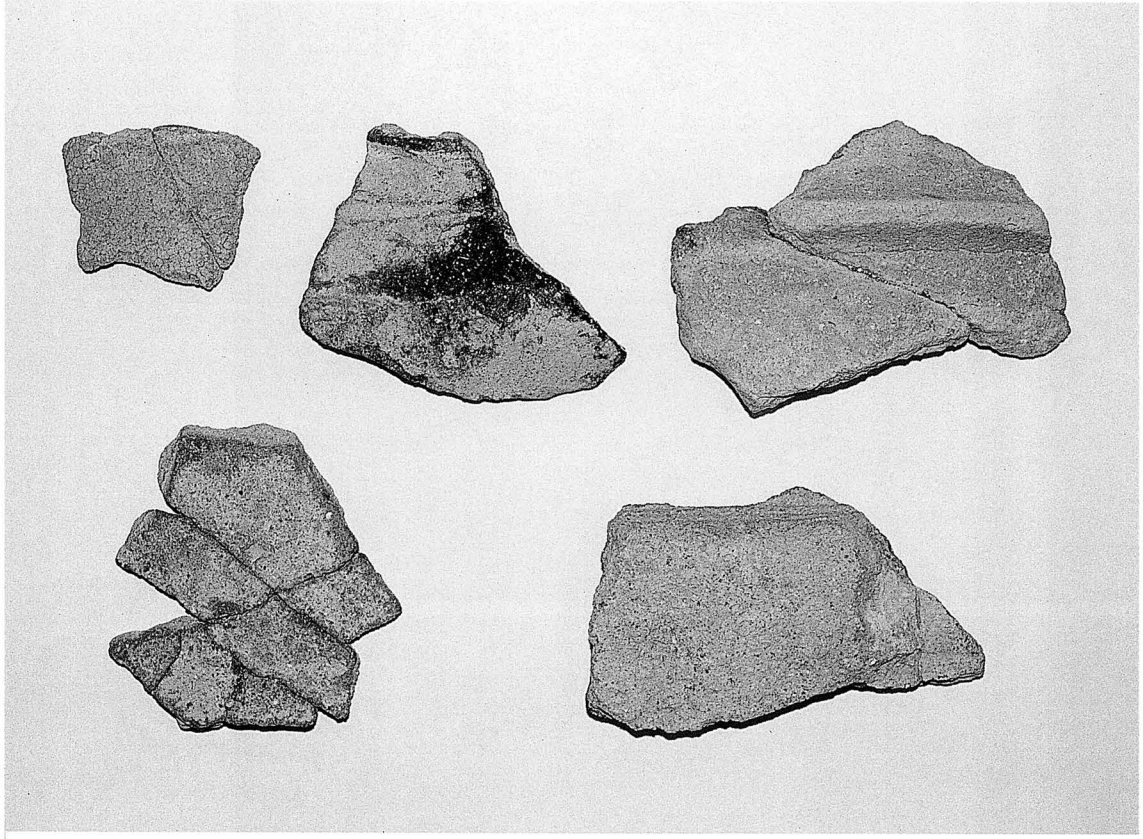
図版４　玉手山遺跡2001―１次調査



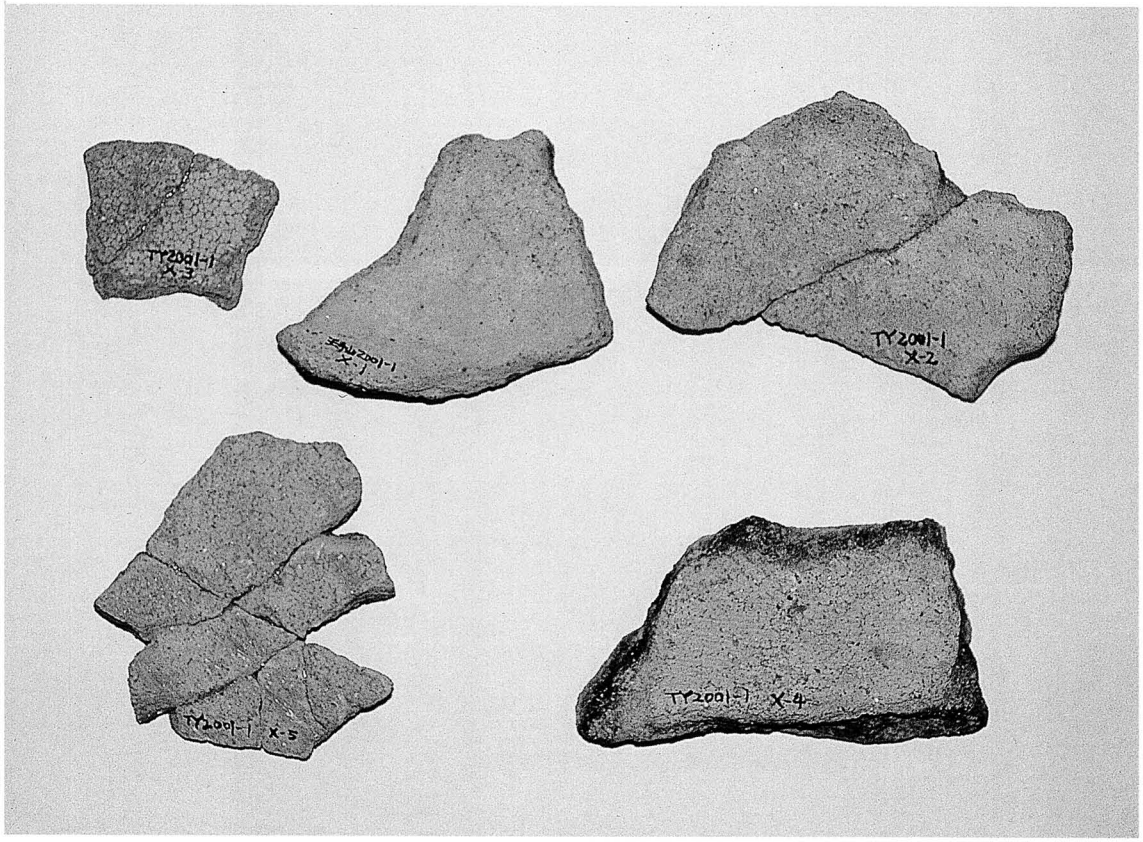
全景

土層断面

図版５　玉手山遺跡2001―１次調査

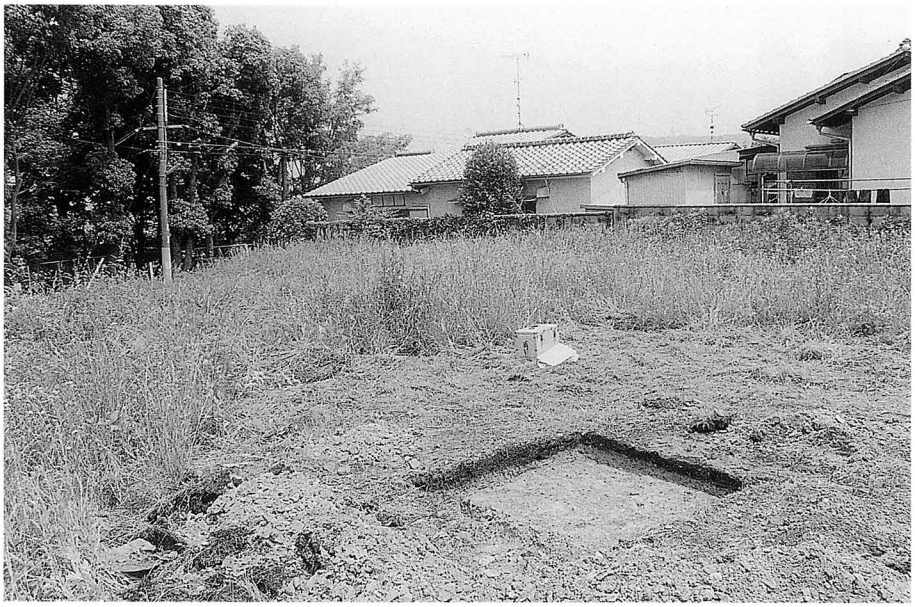


出土遺物

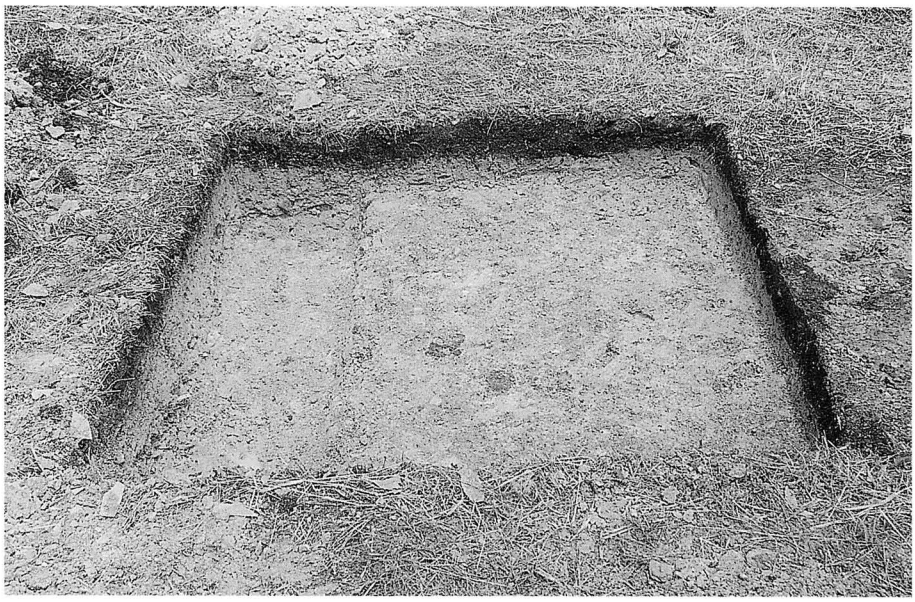


出土遺物

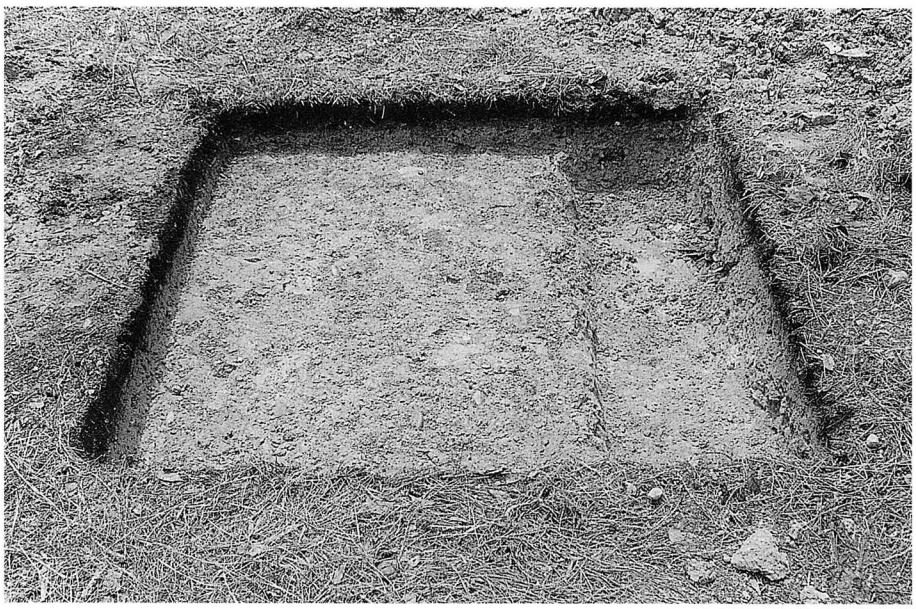
図版６　玉手山遺跡2001―４次調査



全景（南から）



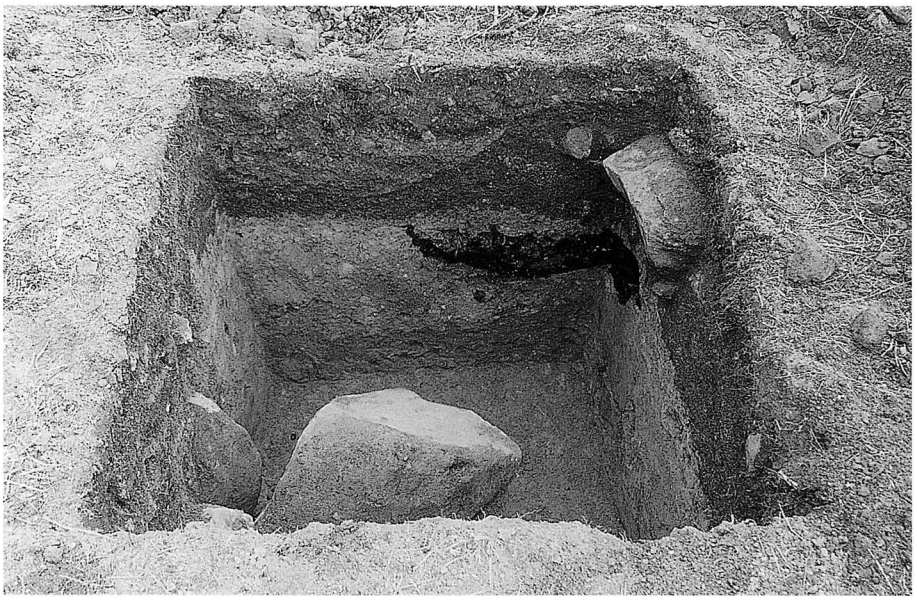
南から



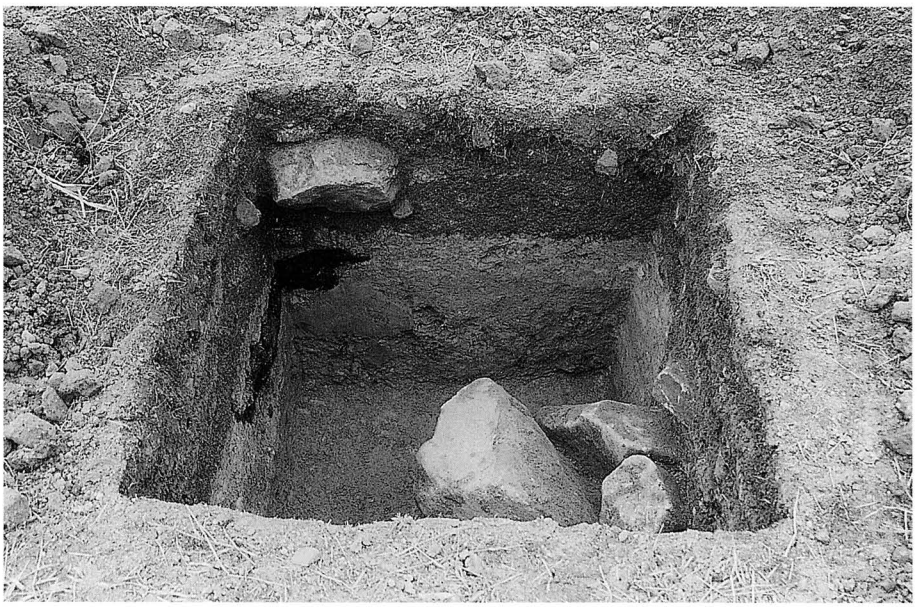
北から

図版７　原山遺跡2001―１次調査

南から



北から

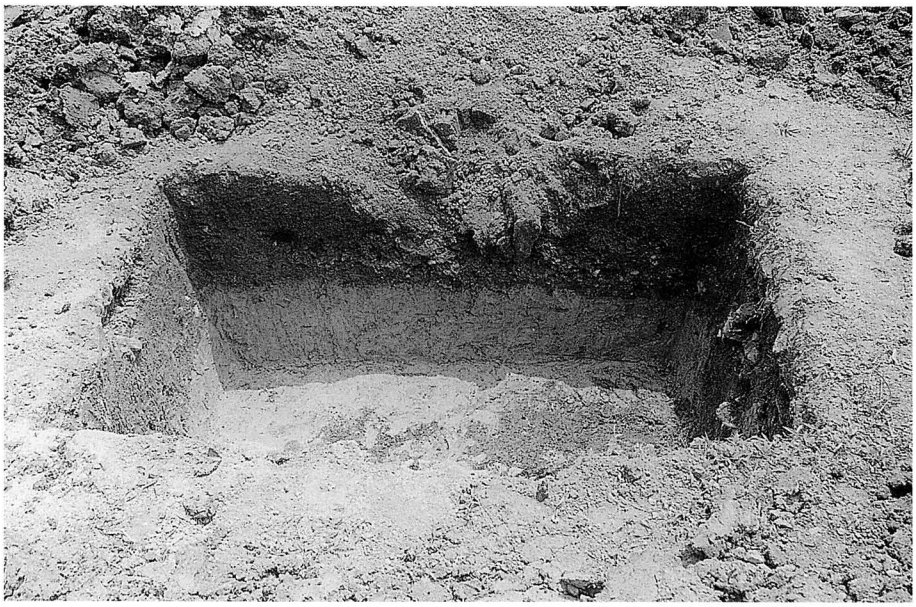


東から

図版８　田辺遺跡2001―３次調査

西から

北から



東から

図版９　田辺遺跡2001―４次調査

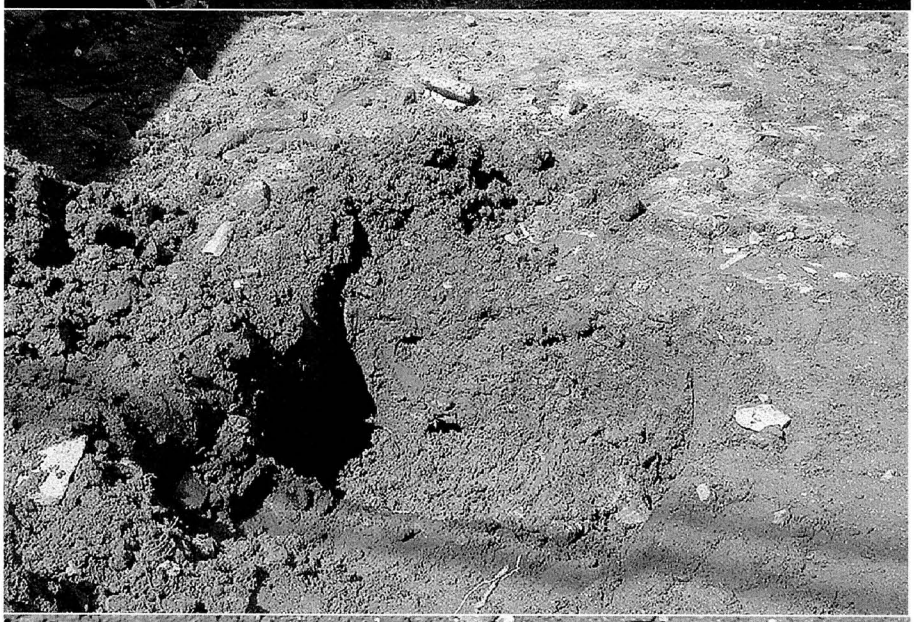
全景（北から）
後方の森が
おいなり古墳

南から

東から

図版10　田辺遺跡2001―５・６次調査

調査地全景
（東南から）

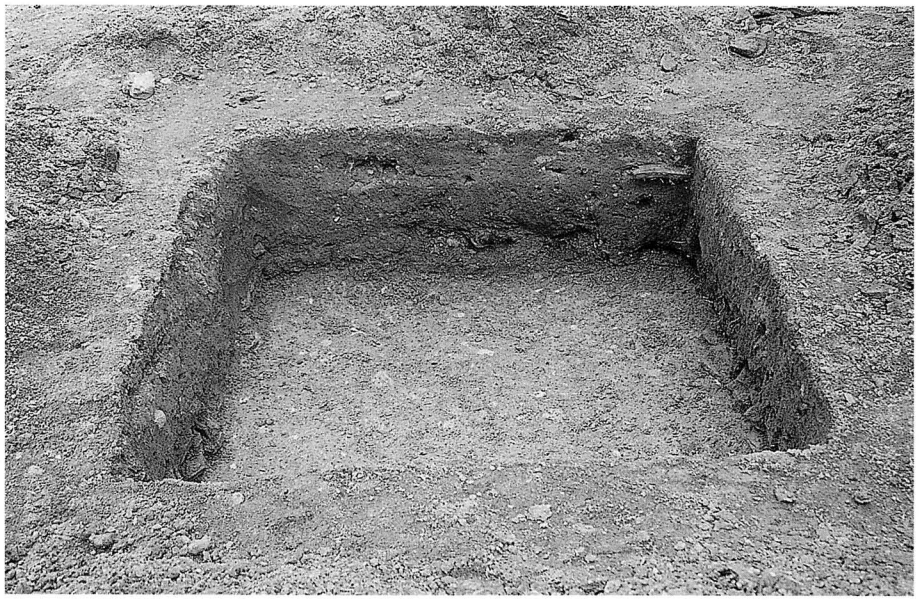


５次調査区
（東から）

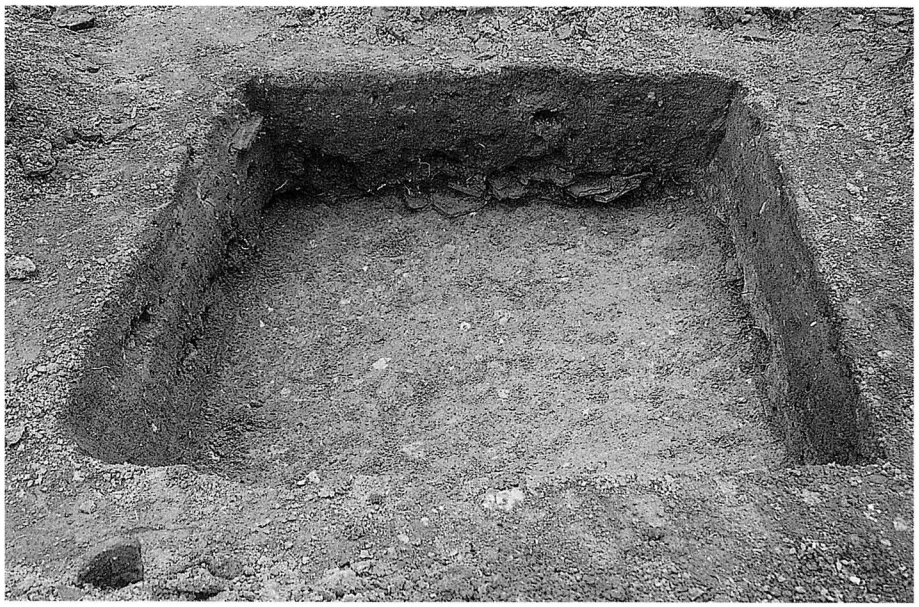
６次調査区
（東から）

図版11　田辺遺跡2001―７次調査

南から

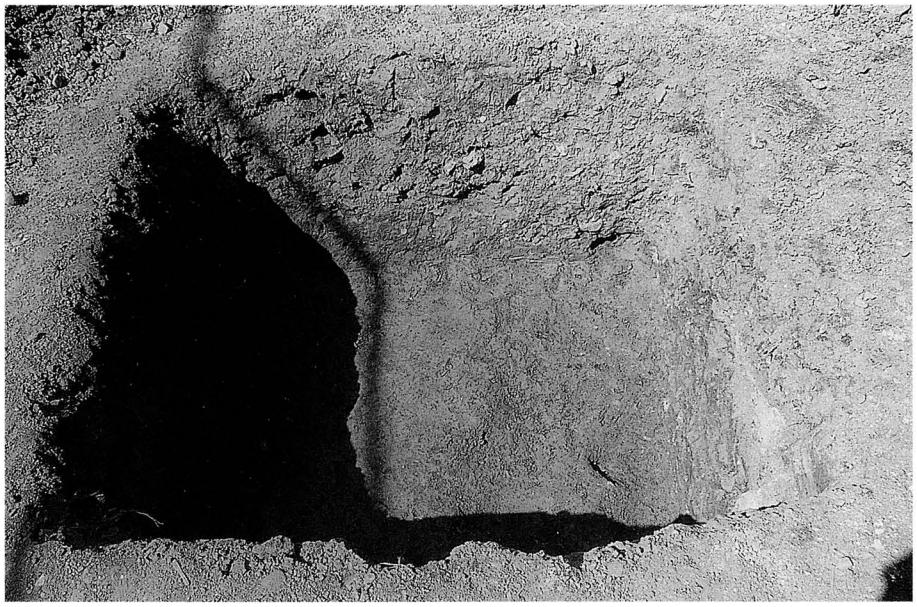


西から

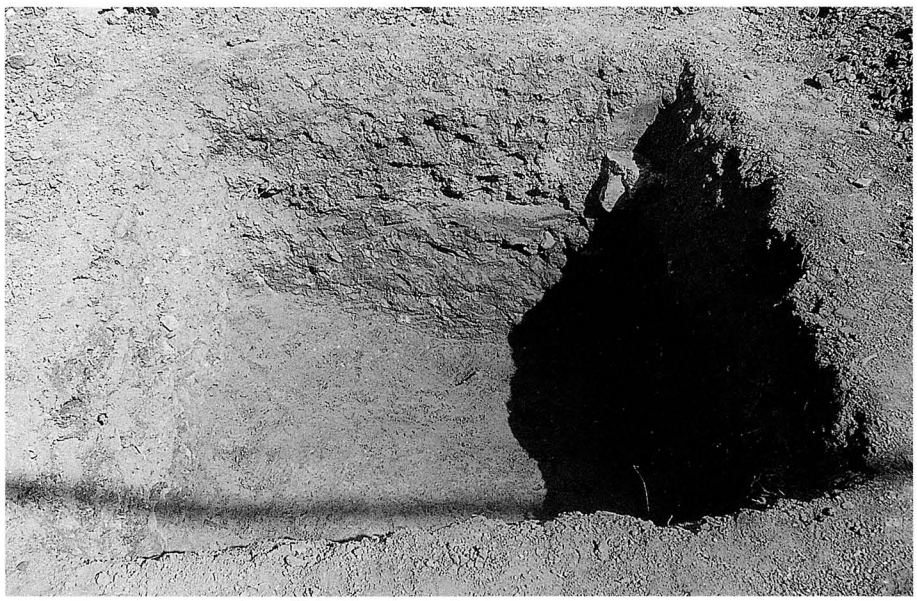


北から

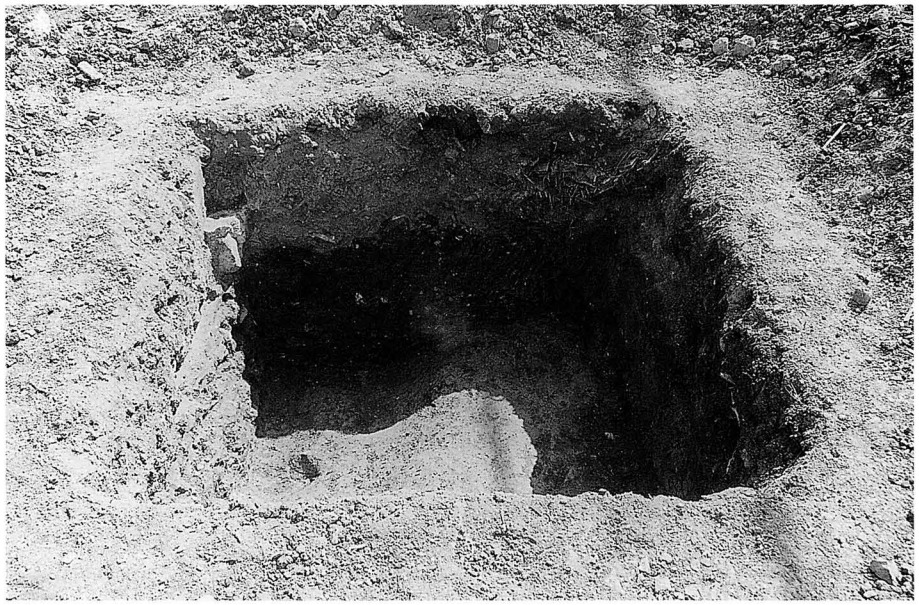
図版12　田辺遺跡2001―９次調査



南から



西から



北から

報 告 書 抄 録

ふりがな	かしわらしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報　2001年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	柏原市文化財概報
シリーズ番号	２００１－Ⅰ
編著者名	安村俊史、北野　重、石田成年
編集機関	柏原市教育委員会
所在地	〒582－8555　大阪府柏原市安堂町１番43号　　TEL　0729－72－1501
発行年月日	2002年３月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
大県	大阪府柏原市平野２丁目	27221	ＯＧ 2001-1	34度35分17秒	135度38分09秒	2001.07.24	1.1	個人住宅増築
安堂	太平寺１丁目	27221	ＡＤ 2001-2	34度34分41秒	135度37分57秒	2001.05.10	2.0	個人住宅建設
安堂	安堂町	27221	ＡＤ 2001-4	34度34分30秒	135度38分08秒	2001.07.17	2.3	個人住宅建設
玉手山	玉手町	27221	ＴＹ 2001-1	34度33分39秒	135度37分56秒	2001.01.18～2001.01.22	4.7	個人住宅建設
玉手山	玉手町	27221	ＴＹ 2001-4	34度33分40秒	135度37分56秒	2001.05.25	2.3	個人住宅建設
原山	旭ヶ丘３丁目	27221	ＨＹ 2001-1	34度33分16秒	135度38分17秒	2001.12.03	2.3	個人住宅建設
田辺	田辺１丁目	27221	ＴＢ 2001-3	34度33分25秒	135度38分38秒	2001.06.11	1.5	個人住宅建設
田辺	田辺１丁目	27221	ＴＢ 2001-4	34度33分26秒	135度38分36秒	2001.08.06	2.3	個人住宅建設

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
田辺(たなべ)	田辺(たなべ)2丁目(ちょうめ)	27221	TB 2001-5	34度 33分 17秒	135度 38分 42秒	2001.08.29	1.0	個人住宅建設
田辺(たなべ)	田辺(たなべ)2丁目(ちょうめ)	27221	TB 2001-6	34度 33分 17秒	135度 38分 42秒	2001.08.29	1.0	個人住宅建設
田辺(たなべ)	国分本町(こくぶほんまち) 6丁目(ちょうめ)	27221	TB 2001-7	34度 33分 49秒	135度 38分 41秒	2001.09.11	2.3	個人住宅建設
田辺(たなべ)	国分本町(こくぶほんまち) 7丁目(ちょうめ)	27221	TB 2001-9	34度 33分 40秒	135度 38分 43秒	2001.09.18	2.3	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大県	集落		なし	なし	
安堂	集落	古墳～近世	なし	土師器、須恵器、陶磁器	
安堂	集落	古墳～近世	なし	土師器、須恵器、瓦	
玉手山	古墳群	古墳	なし	埴輪	
玉手山	集落		なし	なし	
原山	集落		なし	なし	
田辺	集落		なし	なし	
田辺	集落	奈良	掘立柱柱穴	土師器、瓦	
田辺	集落		なし	なし	
田辺	集落		なし	なし	
田辺	集落	飛鳥～中世	なし	土師器	
田辺	集落		なし	なし	

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

２００１年度

編集・発行　柏原市教育委員会
〒582-8555　大阪府柏原市安堂町1番43号
電話(0729)72－1501　内線5134
発行年月日　平成14年３月29日
印　　刷　㈱近畿印刷センター